「34,000 年前、墨古沢（すみふるさわ）は日本の中心であった」

予　稿　集

期　　日　令和２年１２月５日（土）
場　　所　プリミエール酒々井 文化ホール
主　　催　酒々井町・酒々井町教育委員会

墨古沢遺跡国史跡指定1周年記念シンポジウム

「34,000 年前、墨古沢は日本の中心であった」

令和２年１２月５日（土）
プリミエール酒々井 文化ホール

開場・受付　１２：００～

開　　始　１２：３０

◆開会・趣旨説明　１２：３０～１２：４０

◆基調報告

1. １２：４０～１３：２０（40 分）
「列島の環状ブロック群の分布とその特徴」
村井大海　（長野県埋蔵文化財センター 調査研究員）

2. １３：２０～１４：００（40 分）
「下総台地の環状ブロック群: 最新の研究成果から」
新田浩三　（(公財)千葉県教育振興財団文化財センター 上席文化財主事）

3. １４：００～１４：４０（40 分）
「墨古沢遺跡の年代と自然環境」
工藤雄一郎　（学習院女子大学 国際文化交流学部日本文化学科 准教授）

休　　憩（20 分）　１４：４０～１５：００

◆基調講演　１５：００～１６：００（60 分）
「34,000 年前、墨古沢は日本の中心であった」
佐藤宏之　（東京大学 文学部考古学研究室 教授）

◆討論・質疑応答　１６：１０～１６：５０（40 分）

◆閉　　会　１６：５０

【参加にあたりコロナウィルス感染拡大予防にご協力ください】

〇マスクを着用し、手指消毒や咳エチケットの徹底についてご配慮願います。
〇発熱のある方、体調の著しく悪い方は参加をご遠慮ください。
〇参加者同士の距離を保ち、密集状態にならないように心がけてください。
〇発表者・スタッフ及び会場での感染予防対策を行わせていただきます。
〇感染が疑われる者が当日参加者内で発生した場合、必要な情報提供を行います。

目　　次

目次・例言

開催趣旨
「開催にあたって」酒々井町教育委員会　・・・・・・・・・・・・・・・・２

基調報告１
村井大海　「列島の環状ブロック群の分布とその特徴」　・・・・・・・６
（長野県埋蔵文化財センター 調査研究員）

基調報告２
新田浩三　「下総台地の環状ブロック群: 最新の研究成果から」　・・１０
（(公財)千葉県教育振興財団文化財センター 上席文化財主事）

基調報告３
工藤雄一郎　「墨古沢遺跡の年代と自然環境」　・・・・・・・・・・・１２
（学習院女子大学 国際文化交流学部日本文化学科 准教授）

基調講演
佐藤宏之　「34,000 年前、墨古沢は日本の中心であった」　・・・・１４
（東京大学 文学部考古学研究室 教授）

附　　編
酒井弘志　「全国環状ブロック群集成 2020」　・・・・・・・・・・１６
（酒々井町教育委員会 生涯学習課）

例　　言

１．本書は令和 2 年 12 月 5 日に開催する国史跡指定 1 周年記念シンポジウム「34,000 年前、墨古沢は日本の中心であった」の予稿集である。
２．本書の編集は、シンポジウムの企画・運営を担当した酒々井町教育委員会生涯学習課がおこなった。
３．シンポジウムの開催及び予稿集の作成にあたり多くの方々、関係機関よりご協力を賜った。記して感謝の意を表したい。

開催趣旨

シンポジウム開催にあたって

酒々井町教育委員会

Ⅰ　墨古沢遺跡は千葉県印旛郡酒々井町南部の墨地区に所在する面積約 27 万㎡を超える旧石器時代、縄文時代、中世～近世初頭を主体とする遺跡である。

環状ブロック群は㈶千葉県文化財センターによる、平成 11･12 年度の東関東自動車道酒々井パーキングエリア拡張工事に伴う緊急発掘調査により発見され、その際に立川ローム層第Ⅸ層上部（Ⅸa 層･約 3 万 4 千年前）から開発予定地内に所在する西側約 1/3 について発掘調査が行われた。

扇状に並ぶ 29 ヵ所のブロックとそれらに伴う 20 ヵ所の付随ブロックから、狩猟具であるナイフ形石器・台形様石器、工具である削器・石錐・楔形石器･局部磨製石斧調整剥片等を主体とした計 3,946 点の石器が出土し、またブロック間をまたぐ接合資料も豊富に確認され、日本国内でも最大級の環状ブロック群であることが推察された。

Ⅱ　酒々井町ではこの貴重な文化遺産を後世に保存し、かつその内容を広く一般に周知して文化財の保存・普及活動に寄与するため、また既存の町施設・周辺諸施設との好立地・好環境から考える観光拠点として、墨古沢遺跡の普及・利活用を積極的に図っていきたいと考え、その第一段階として環状ブロック群の東側部分がどのような状況であるか、その規模や遺存状態を確認し、学術的な価値づけを行うため､平成 27～30 年度に範囲確認調査を実施した。

その 3 ヵ年に及ぶ範囲確認調査の結果、環状ブロック群の残り東半についての遺存状況もよく、また当初の予想分布範囲をはるかに超えた広がりをみせ、これにより規模が南北 70m×東西 60m、遺存率も 6 割強となった。この成果により環状ブロック群全体では､ブロック数は 70 ヵ所以上、石器の総点数も 1 万点をこえるものと推察され、規模・ブロック数・石器総数においても、非常に大規模かつ日本最大級を誇るものであることが判明した。

石材には群馬県域のガラス質黒色安山岩が 7 割以上使用され、また信州、伊豆諸島の神津島、栃木県高原山産の黒曜石が使用されたことが石器石材の原産地分析から推定されている。またその他にも、主に北関東からもたらされたと考えられる玉髄、トロトロ石、流紋岩などが用いられたと推察でき、この遺跡を営んだ人々が広域を移動し、更に遠方の集団とも交流を行っていたことがうかがえた。

さらに出土炭化材の年代測定（AMS 法）により環状ブロック群の年代がおおよそ 3 万 4 千年前であることが判明したこと、花粉分析・出土炭化材の樹種同定やローム層のプラントオパールにより当時の古環境が判明したこと、ローム層のテフラ（火山灰)･鉱物分析により石器の出土層位が立川ロームⅨ層中部～上部であることが確認できたこと、遺跡立地の微地形を確認する調査結果により、環状ブロック群形成にあたり自然の凹地を選地していた可能性があることが判明するなど多くの自然科学分析の成果も得られている。

Ⅲ　このように墨古沢遺跡からは後期旧石器時代の人々の移動や交流、生業活動や集団関係について知ることができ、日本の旧石器時代を解明するうえで、また日本の旧石器時代史を語るうえで欠かすことのできない存在である。

これらの成果を受け、墨古沢遺跡は令和 元年 10 月 16 日に国史跡の指定を受けた。

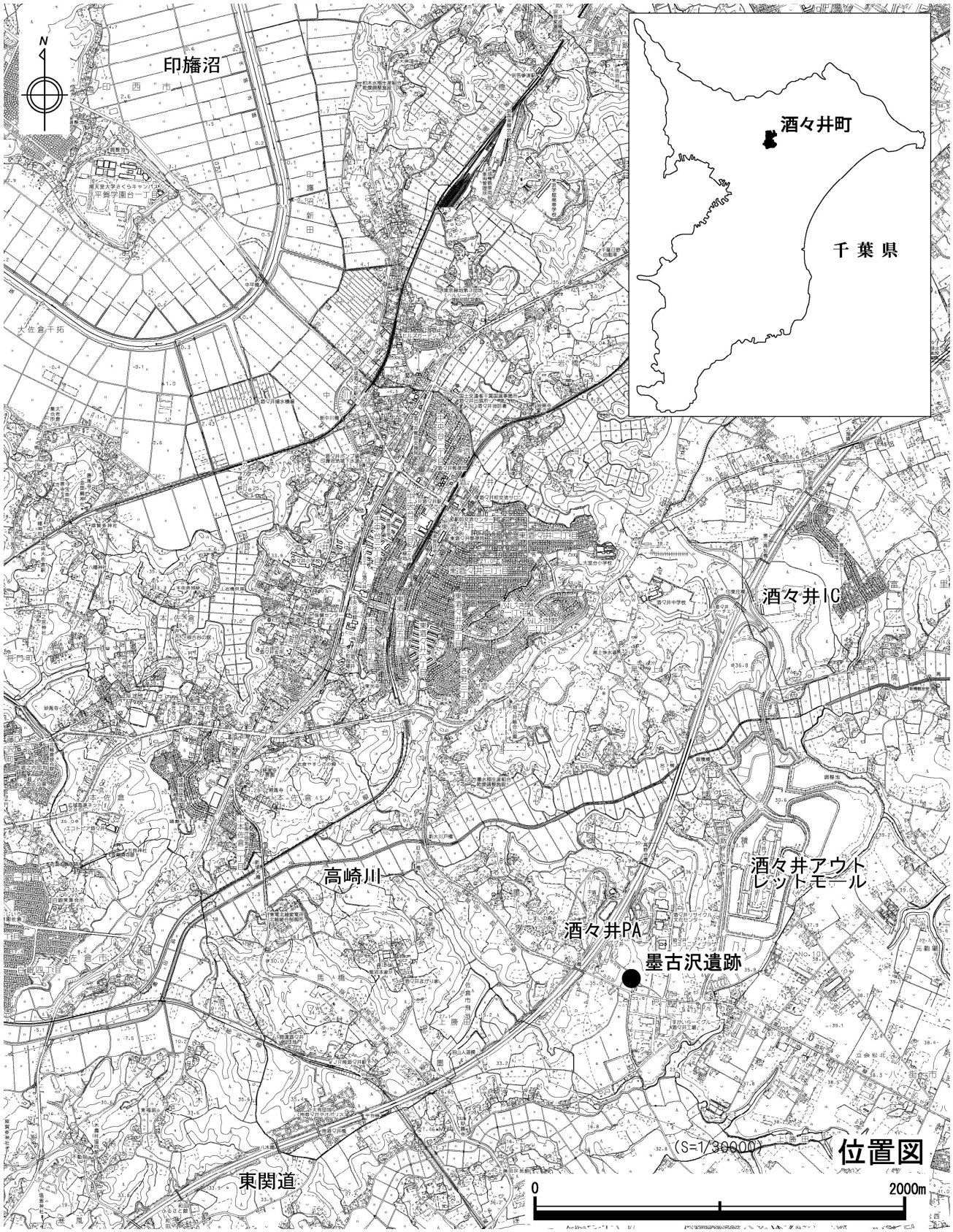
私たちはこの史跡墨古沢遺跡を末永く後世に保存していくことは言うなでもなく、遺跡のもつ価値・特性を十分に理解･整理することより、今後の保存･周知・活用に活かしていくことが必要とされる。

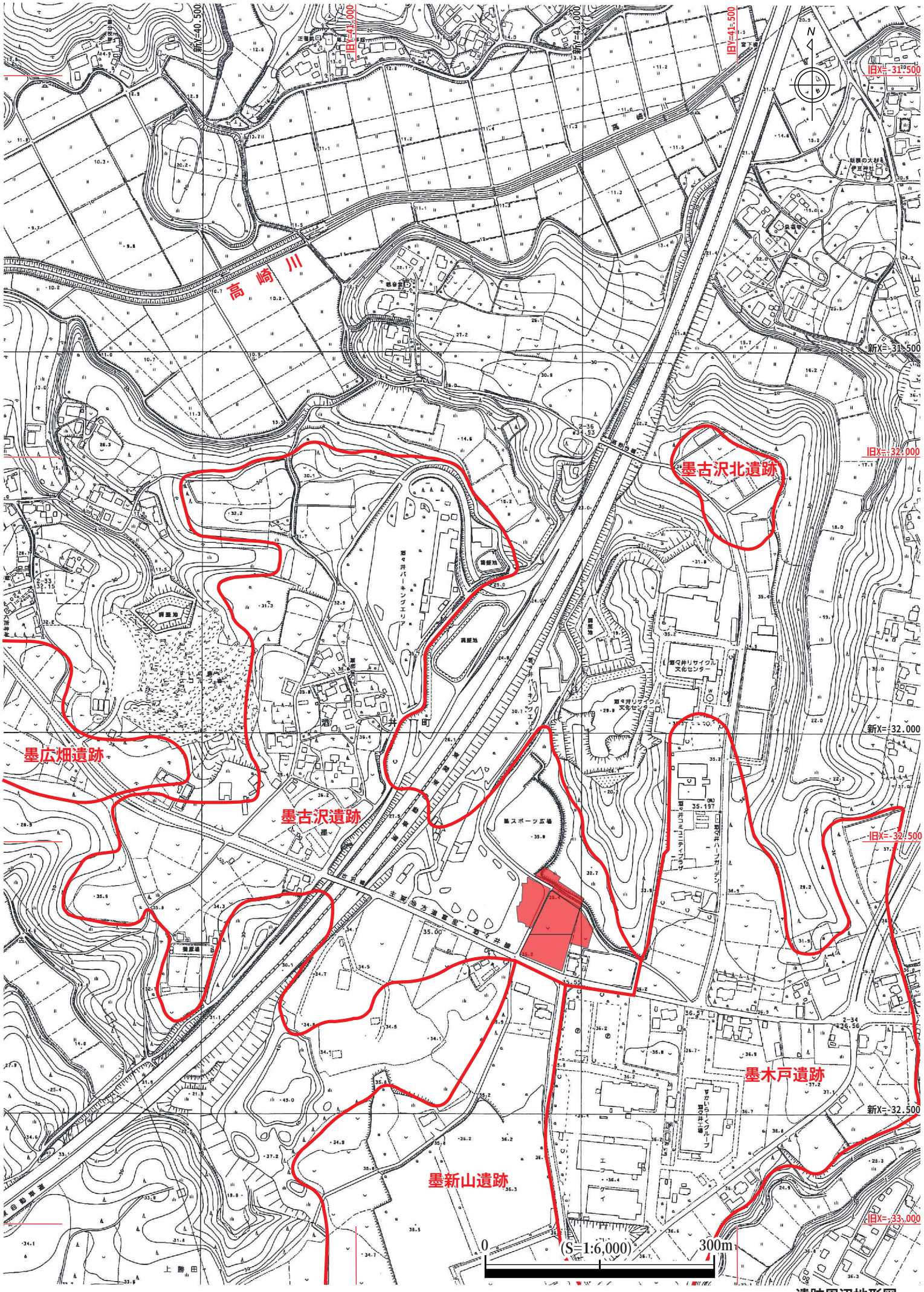
Ⅳ　そのような背景のもと、保存・活用の第二段階として令和元年度から『史跡墨古沢遺跡保存活用計画』の策定が始まった。その内容検討が進む中で、史跡墨古沢遺跡の価値や特徴、今後の方向性などが抽出されていく一方、アンケート結果などから一般の方々には「旧石器時代」「環状ブロック群」「墨古沢遺跡」についてまったくというほど認知度が低く、内容の周知が十分に図られていない事実も明らかになった。

そこで私たちは、まず一般の方々に史跡墨古沢遺跡を知ってもらうことを第一の目的とし、史跡の内

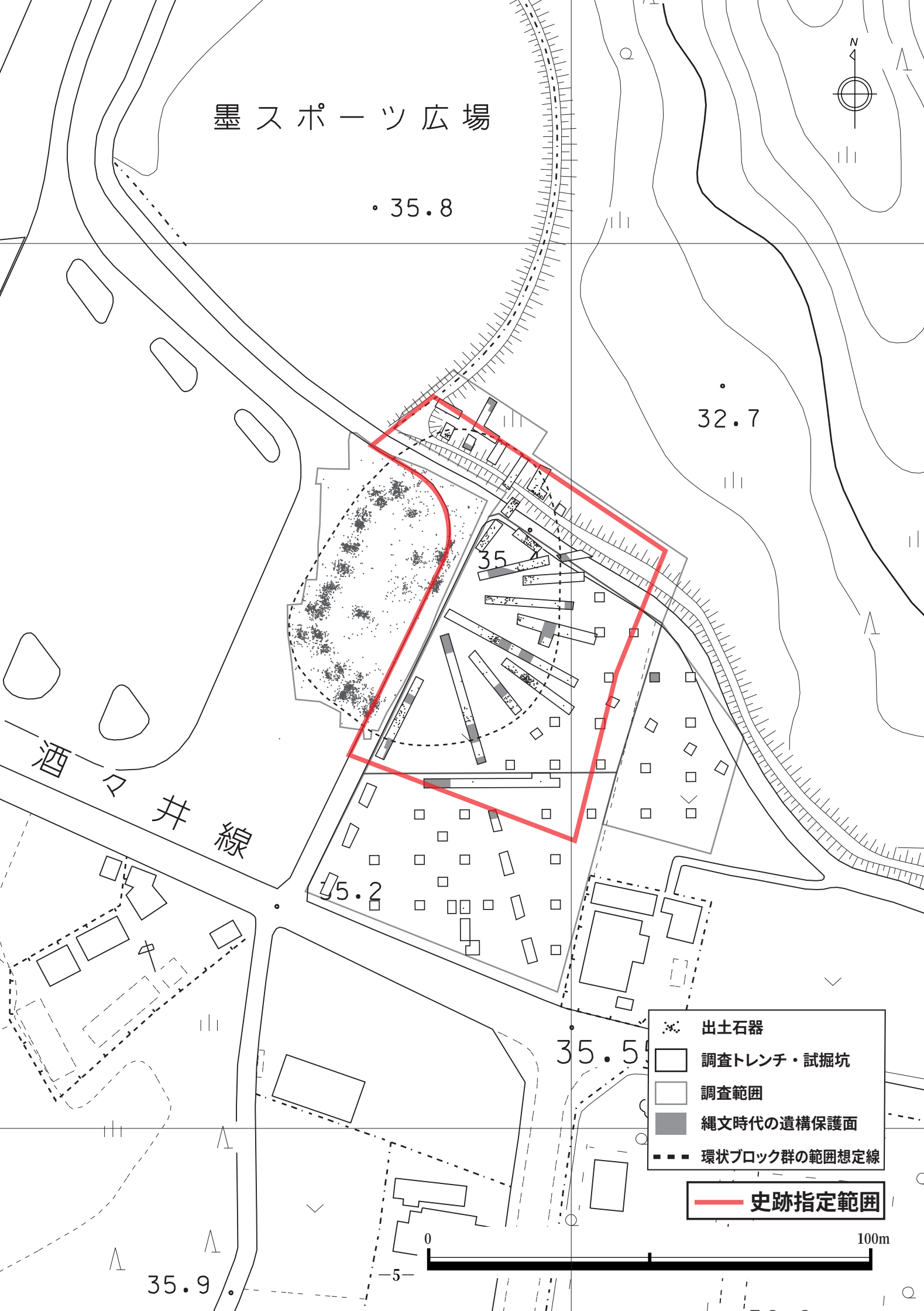
容を理解・周知するための本シンポジウムの開催を企画した。一般の方々が興味を引くための大胆なタイトルもそのためである。

日本旧石器時代三大特徴としての環状ブロック群、その環状ブロック群の約半数が下総台地で検出されている事実、その中でも日本最大級の規模を誇る史跡墨古沢遺跡がどのような遺跡であるのか、その存在や成立にはどのような背景があるのか、本シンポジウムを通し、タイトル「34,000 年前、墨古沢は日本の中心であった」意味の一端が明らかにできればと考えている。




高崎川
墨古沢北遺跡
墨広畑遺跡
墨古沢遺跡
墨木戸遺跡
墨新山遺跡
酒々井パーキングエリア
調整池
墨スポーツ広場
酒々井サイクル文化センター
酒々井コミュニティプラザ
酒々井ハーブガーデン
すかいらくグループ酒々井工場
酒々井町
上勝田
新Y=-40.500
旧Y=-41.000
新Y=-41.500
旧Y=-41.500
旧X=-31.500
新X=-31.500
旧X=-32.000
新X=-32.000
旧X=-32.500
新X=-32.500
旧X=-33.000
N
0
(S=1:6,000)
300m

遺跡周辺地形図


墨スポーツ広場
35.8
32.7
35
酒々井線
35.2
35.5
35.9
N
出土石器
調査トレンチ・試掘坑
調査範囲
縄文時代の遺構保護面
環状ブロック群の範囲想定線
史跡指定範囲
0
100m

基調報告１

列島の環状ブロック群の分布とその特徴

長野県埋蔵文化財センター
調査研究員　村井　大海

はじめに

環状ブロック群は橋本勝雄氏によって、群馬県和田遺跡および下触牛伏遺跡において認識された特殊な石器の出土（石器ブロックが中央域とそれを囲む円環部によって有機的集合体を呈する）状況を発端として、類例を集成した結果、同様の石器出土状況を示す遺跡が後期旧石器時代前半期に限って認められるという時間的限定性を確認したことから命名された（橋本・須田良平 1987）。認識当初は、環状ブロック群から出土する斧形石器を伴う石器群が汎日本的な性格を有していることから、全国的に展開する遺跡と目されていたが（橋本 1989）、集成が進むにつれ、地域的立地状況[1]には差異が認められ、特に北海道は類例が１例のみ、九州・四国では確実な遺跡は認められないと指摘される（小菅将夫 2000、橋本 2010）。

分布の地域差は、調査範囲や掘削深度の制約など、旧石器時代の社会的要因とは無関係な事情が反映される場合がある。特に環状ブロック群の場合、認識するには広範囲の調査が必要となり、また後期旧石器時代前半期の遺跡は地中深くに埋没しているため、これらの制約が遺跡発見に与える影響は大きい。ただし、一般にローム層の堆積が薄い東北地方では、関東地方に比べ環状ブロック群の分布は希薄であり、分布の濃淡が必ずしも調査の制約によるものではないことも事実である。

そこで本稿では、後期旧石器時代前半期に日本列島に展開する環状ブロック群の分布を概観し、その特徴から当時の人々の行動戦略の考察を試みたい。

日本列島環状ブロック群集成

本題に入る前に、日本列島における環状ブロック群の概要と墨古沢遺跡の特質をまとめておきたい。酒々井町教育委員会の集成結果から、現在 146 か所（118 遺跡）の環状ブロック群が確認されている（酒井弘志・村井大海編 2019）。

環状ブロック群は横長・幅広の剥片を素材とする台形様石器と石刃・縦長剥片を素材とする尖頭形石器の２つの異なる技術を使い分ける二極構造（佐藤宏之 1992）に斧形石器が伴う共通した石器群を保有すると

れる。日本列島の旧石器時代遺跡データベースによれば、環状ブロック群と同様の石器群を保有する遺跡/文化層は概算 1400 を数える（日本旧石器学会編 2010）。1400 遺跡/文化層のうち、環状ブロック群と認められる遺跡は約 8％となる。環状ブロック群が後期旧石器時代における一般的な集落形態とは異なることは明らかであろう。

これらの環状ブロック群には大小さまざまな規模が見受けられる。規模を評価するためには以下の３つの要素が重要と考える。①集落を構成した集団の規模や数を反映する石器ブロック数、②集落での活動量を反映する出土石器数、③集落の大きさを指し示す円環の大きさである。石器ブロック数は平均 11.57 か所、中央値９か所で５、６か所、９、10 か所、14 から 18 か所で構成される遺跡に数のピークが認められ、20 か所を超える遺跡は少ない（第１図）。このことから石器ブロック数をＡ類＝20 か所以上、Ｂ類＝13～19 か所、Ｃ類=7～12 か所、Ｄ類＝6 か所以下、に分類する。出土石器数は 100～199 点、200～299 点に最も多くの遺跡が認められ、400～499 点、700～799 点、1400～1499 点、1600～1699 点にも遺跡数のピークが認められ、2000 点以上の遺跡は少ない（第２図）。以上の傾向をもとに、Ⅰ類＝2000 点以上、Ⅱ類＝1000 点以上 2000 点未満、Ⅲ類＝600 点以上 1000 点未満、Ⅳ類 600 点未満に分類する。以下、２つの類型を組み合わせＡⅠ類、ＢⅡ類…と類型化する。例えば、石器ブロックが 20 か所以上で、出土石器数が 2000 点以上の遺跡はＡⅠ類、石器ブロックが 7～12 か所で出土石器数が 600 点以上 1000 点未満の遺跡はＣⅢ類となる。円環部の径は東西径と南北径で計測している。東西径は最大 72m、平均 25.23m、中央値 22m、南北径は最大 80m、平均 25.37m、中央値 22m である。類型と円環部径の関係を見ると、円環部径が増大すれば、石器ブロックおよび出土石器数も増大し、逆に円環部径が減少すれば石器ブロックおよび出土石器数も減少する、正の相関を示すことがよくわかる（第３図）。一般的な環状ブロック群の円環部径は東西径、南北径とも 30m 以下で、石器ブロック数 13～19 か所以

下、出土石器数1000点未満である。墨古沢遺跡の場合、東西径60m、南北径70mを測る、AⅠ類の環状ブロック群であるが、同等の規模を誇る環状ブロック群は、墨古沢遺跡以外では3遺跡しか存在しない(千葉県大松遺跡、栃木県上林遺跡、長野県貫ノ木遺跡)。これらの遺跡は文字通り最大規模の環状ブロック群と位置づけることができ、墨古沢遺跡の特質も、この最大規模という言葉に集約される。

環状ブロック群の分布

環状ブロック群は沖縄・四国・島嶼部を除く、北海道から九州かけて広範囲に分布する。小菅氏や橋本氏が指摘するように北海道では1例、九州では2例、四国には分布せず、先学が指摘した特徴を改めて確認することができる。また、東北地方や西日本においても希薄であり、関東、静岡県東部、中部高地の範囲に集中し、132/146か所(約96%)が分布する。先にも触れたが、遺跡の分布は発掘調査の範囲・掘削深度等、現代社会の事情が反映されるが、この偏在性をそれだけで説明することは困難と思われる。環状ブロック群が同様の石器群を有する遺跡のうち約8%しか認められないという特殊性、さらに日本列島の後期旧石器時代前半期に限って認められるという限定性も考慮すれば、環状ブロック群の分布傾向には、時期と地域に規定された社会的要因が影響していると考えざるをえないのである。

さらに、環状ブロック群が集中する関東・静岡県東部・中部高地の範囲において、特に密集して分布する地域が3か所認められる。千葉県下総台地、群馬県赤城山・榛名山南麓、長野県野尻湖である(第4図)。

千葉県下総台地には71/146か所(約49%)、環状ブロック群の約半数が分布する最大の密集地帯である。量もさることながら、最大級の規模を誇る墨古沢遺跡と大松遺跡、斧形石器が大量に出土した南三里塚宮原第1遺跡や瀧水寺裏遺跡、複数の環状ブロック群が発掘された例が15遺跡認められる等、その内容も非常に豊富である。

群馬県赤城山・榛名山南麓には29/146か所(約20%)が分布する。下総台地には及ばないものの、他地域と比較すれば、分布密度には特筆すべきものがある。墨古沢遺跡に匹敵する最大規模の環状ブロック群は認められないが、それに準じる三和工場団地Ⅰ遺跡(AⅡ類)や下触牛伏遺跡(BⅠ類)等が認められ、2か所の環状ブロック群が発掘された例も4遺跡ある。環状ブロック群を認識する契機となった和田遺跡、下触牛伏遺跡もこの地に分布しており、学史上も重要な地域である。

長野県野尻湖は9/146か所(6%)と、数字の上では上記2地域ほどの密集地帯には見えないかもしれない。しかしながら、下総台地はその分布が広範な台地全体に、赤城山・榛名山南麓も広範な山裾の扇状地や河川流域に展開する一方、野尻湖の場合、その沿岸の非常に狭い範囲に9か所の環状ブロック群が隣接して分布しており、その分布密度は2地域と遜色ない。最大規模の貫ノ木遺跡や、斧形石器の出土が日本最多の日向林B遺跡、複数の環状ブロック群が発掘された例が3遺跡と、内容も豊かである。

環状ブロック群の分布と形成要因

日本列島における後期旧石器時代前半期の社会的要因が環状ブロック群の分布に影響をあたえると仮定すれば、これら3地域には地理的な共通点が認められ、その共通点こそが旧石器時代の人々が環状の集落を形成する際の重要な因子になったと考える。3地域の共通点とは何であろうか。筆者は3地域が旧石器時代の人間集団の移動ルートの要衝であったと推定している。下総台地は日本で、最も広大な面積を持つ台地であり、狩猟を生業とした移動生活を営む旧石器時代の人々にとって重要な狩場であった。さらに、この台地は下野-北総回廊(田村2007)によって北関東と地形的に接続し(第5図)、人間集団の往来が活発であったと思われる。赤城山・榛名山南麓は優良な狩場である関東平野から黒曜石原産地を抱える中部高地に向かう峠道の玄関口にあたり、やはり人間集団は頻繁にこの地を往来したであろう。野尻湖は中部高地から日本海側に向かう際の中継点にあたる。本州は太平洋側から日本海側を往来する際に急峻な山越えが必要となるが、野尻湖を経由するルートは比較的緩やかに山越えが可能であり、食料資源の確保も他のルートよりも容易であったと考える。旧石器時代の人間集団は積極的に野尻湖ルートを利用し、活発な往来があったのだろう。人間集団の移動ルートの要衝に環状ブロック群が形成される状況は密集地帯に限ったことではなく、兵庫県七日市遺跡は瀬戸内海と京都府の山間部を抜け日本海に至る氷上回廊に分布している。

人間集団が活発に往来した地域では、複数集団が一同に会する機会が発生したと思われる。したがって環

状ブロック群は複数集団が集住した結果形成された集落形態と考える。また、環状ブロック群を形成した複数集団は、墨古沢遺跡の石器接合資料および石材の分析成果から、出自を異にする集団の集まりであったと思われる。集住自体は後期旧石器時代全般に行うことが可能であるが、環状ブロック群はその前半期に限って見られる集住形態である。したがって、その形成要因には後期旧石器時代前半期に特有の事情が影響していると思われ、筆者は特に当時の環境が重要な要因であったと考えている。工藤雄一郎氏によれば、後期旧石器時代前半期は晩氷期とならび、気候が短期的な変動を繰り返した「不安定」な時期にあったとされる(工藤2010)。環状ブロック群は当時の人々が、「不安定」な気候に対応するために集住し、周辺の情報を収集して、その後の行動戦略を立てるための「情報収集拠点」であったと考える。一方、後期旧石器時代後半期は寒冷ながらも「安定」した気候となり、「不安定」な気候に対応するための集住は不要となった結果、環状ブロック群が形成されなくなったと推定する。

おわりに

環状ブロック群は、当時の環境および分布の特徴から人間集団の移動ルートの要衝において、出自を異にする複数の集団が集住し、「情報収集拠点」として機能した。それは狩猟を生業とした移動生活をおくる後期旧石器時代前半期の人々が、「不安定」な気候に対応するための行動戦略であった。

註

(1)本稿では、遺跡の地域的立地状況を指す言葉として「分布」を使用し、それぞれの遺跡における石器の平面出土状況を指す場合には「出土状況」という言葉を用いる。

【参考文献】

工藤雄一郎　2010　「旧石器時代遺跡における年代・古環境論」『講座日本の考古学1　旧石器時代　上』　青木書店

小菅将夫　2000　「環状ブロック群の構造」『考古学ジャーナル』№465　ニュー・サイエンス社

酒井弘志・村井大海編　2019　『墨古沢遺跡総括報告書』酒々井町

佐藤宏之　1992　『日本旧石器文化の構造と進化』　柏書房

佐藤宏之　2006　「環状集落の社会生態学」『旧石器研究』第2号　日本旧石器学会

田村　隆　2007　「第二章　景観の中の遺跡」『千葉県の歴史』通史編原始・古代　千葉県

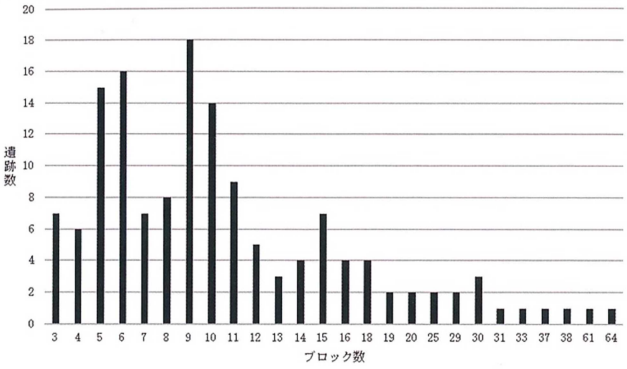
日本旧石器学会編　2010　『日本列島の旧石器時代遺跡』日本旧石器学会

橋本勝雄　1989　「AT降灰以前における特殊な遺物分布の様相」『考古学ジャーナル』№309　ニュー・サイエンス社

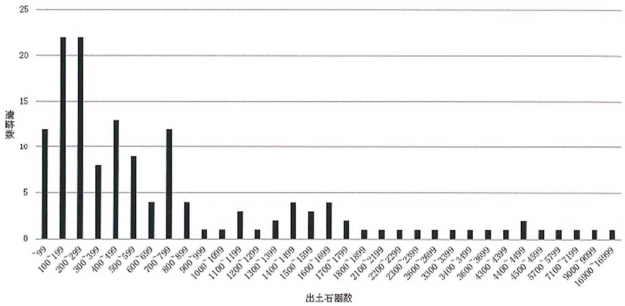
橋本勝雄　2006　「環状ユニットと石斧の関り」『旧石器研究』第2号　日本旧石器学会

橋本勝雄　2010　「ナイフ形石器文化前半期の居住様式」『講座日本の考古学1　旧石器時代　下』　青木書店

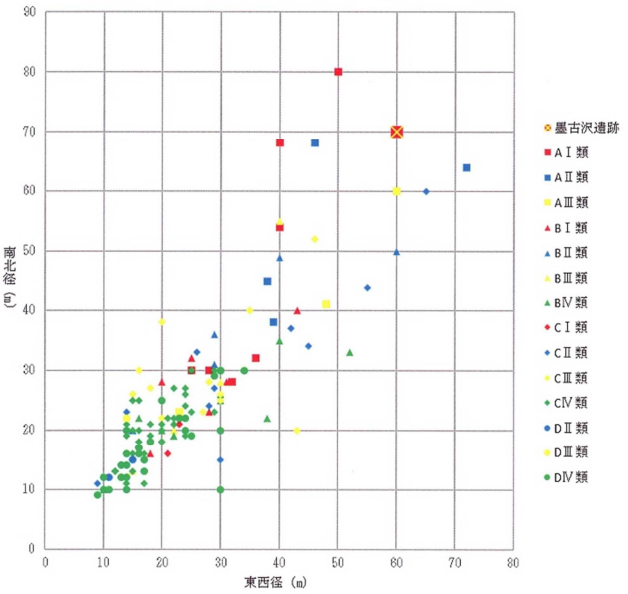
橋本勝雄・須田良平　1987　「旧石器時代」『考古学ジャーナル』№277　ニュー・サイエンス社

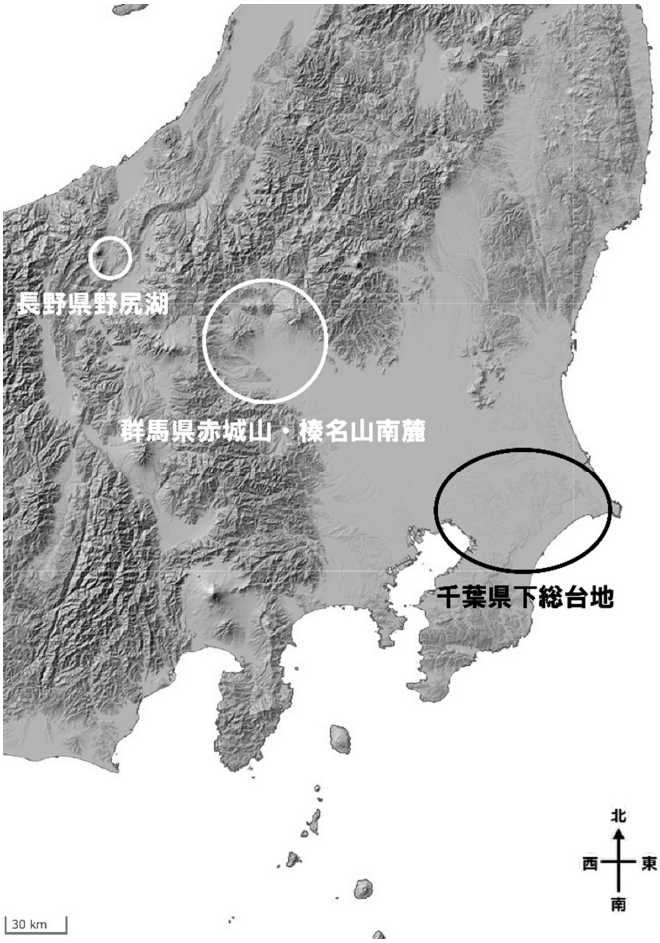


第1図　石器ブロック数(酒井・村井編2019)

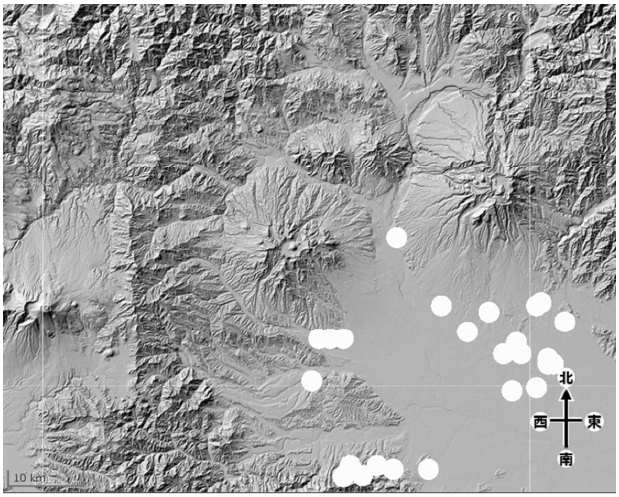


第2図　出土石器数(酒井・村井編2019)

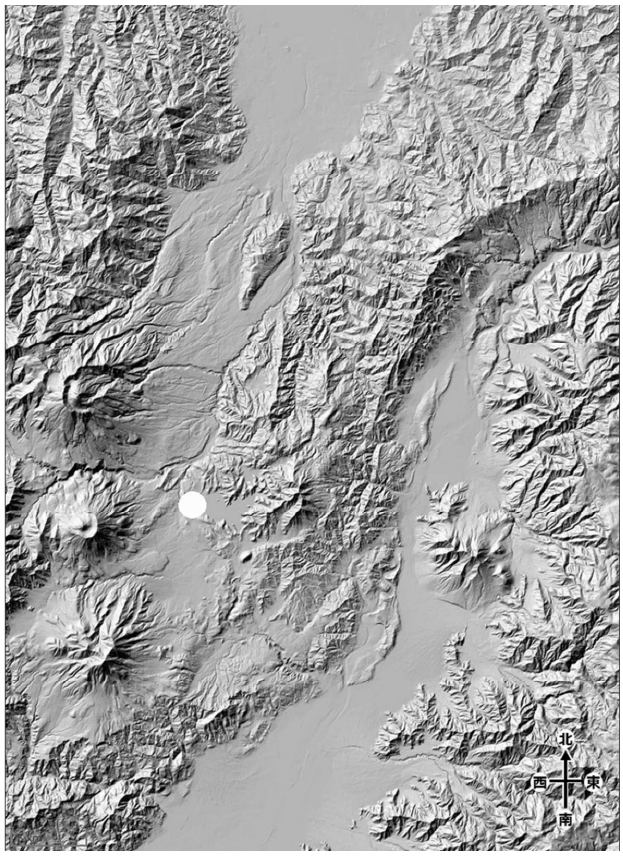




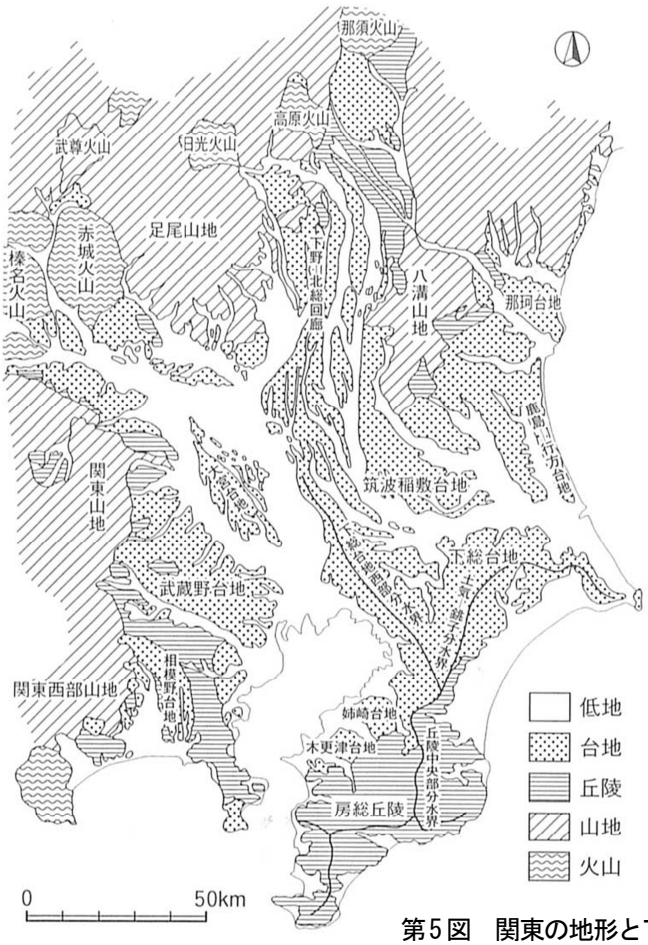
第４図-1　環状ブロック群密集地帯の位置



第４図-2　群馬県赤城山・榛名山南麓（○が遺跡）



第４図-3　長野県野尻湖（○が遺跡）



第５図　関東の地形と下野-北総回廊（田村2007）

基調報告２

下総台地の環状ブロック群：最新の研究成果から

（公財）千葉県教育振興財団
上席文化財主事　新田　浩三

１．はじめに

下総台地の環状ブロック群は、53 遺跡 71 基が確認されている（酒々井町 2019）。時期的変遷は、①Ⅹ層上部段階：御山遺跡。②Ⅸ層下部段階：南三里塚宮原第１遺跡、池花南遺跡、東峰御幸畑西遺跡エリア３、市野谷芋久保遺跡、関畑遺跡。③Ⅸ層中部段階：墨古沢遺跡、小山台遺跡、四ツ塚遺跡、東峰御幸畑遺跡エリア２、東大野第２遺跡、泉北側第３遺跡。④Ⅸ層上部段階：東峰御幸畑遺跡エリア１、原山遺跡第Ⅱ文化層。４つの段階の変遷が窺える。大型の環状ブロック群は③Ⅸ層中部段階に多い。

２．環状ブロック群の最新の調査成果

環状ブロック群の遺跡は次の６つの地域に遺跡群が形成されている。各地域の主な遺跡を列挙し、そのなかで最新の調査成果の遺跡を紹介する。

（１） 印旛沼周辺の遺跡群

環状ブロック群の遺跡が最も多い地域で、酒々井町墨古沢遺跡、印西市泉北側第３遺跡・角田台遺跡・瀧水寺裏遺跡。

墨古沢遺跡（第１図）

平成 11･12 年度に酒々井パーキングエリア拡張工事に伴う調査で、環状ブロック群の西側が調査され、平成 27～29 年度に東側の調査が行われた。西側の調査成果をもとに、環状ブロック群集落形成を考察した結果、複合一体型のモデル提示をした（新田 2005）[1)]。複数の扇状ブロック群を構成要因として、集団をまとめ上げるために、中心部を中核として求心的作用によって大規模な環状ブロック群が形成されたと推察した。今回の特筆される成果は、中央部の凹地を選地し、複数の集団が凹地を目印（ランドマーク）として集結した可能性が高いといえよう。

（２）成田空港地区とその周辺の遺跡群

成田市東峰御幸畑西遺跡･南三里塚宮原第１遺跡。

（３）四街道市内黒田・物井地区の遺跡群

四街道市池花南遺跡・御山遺跡。

（４）柏市・流山市の遺跡群

柏市中山新田Ⅰ遺跡・小山台遺跡・大松遺跡・原山遺跡、流山市市野谷芋久保遺跡。

小山台遺跡（第２図）

Ⅸ層中部から円環部・中央部・外部の３つのブロック群が検出された。長径 70m×短径 50mの大規模な環状ブロック群が形成されている。総計 1,672 点の石器が出土し、14 か所の集中地点が検出された。約 50m離れた接合資料が数個体、多数のブロック間接合資料が見られた。接合状況をブロックごとに分析すると、円環部・中央部・外部の３つのエリアに核となるブロックがあり、この接合核ブロックを経由して、集落全域に石器が行きわたるような接合状況を示していることが窺えた（新田 2017）[2)]。

（５）山武市の遺跡群

山武市四ツ塚遺跡・八幡神社北遺跡。

四ツ塚遺跡（第３図）

Ⅸ層中部から総計約 4,400 点の石器と 74 か所のブロックが検出された。圏央道・東金道路二期・調子連絡道の３つの事業により発掘調査され、それぞれの事業からブロックが検出された。なかでも、東金道路二期の調査区域では、環状ブロック群が２基近接して検出され、環状ブロック群間の接合資料がみられた。環状ブロック群の石器群中に、遠山技法によるものもみられる。広範囲に本段階の石器群が同じ等高線上にブロック群が形成されていることが窺えた（新田 2020）[3)]。

（６）市原市・袖ケ浦市の遺跡群

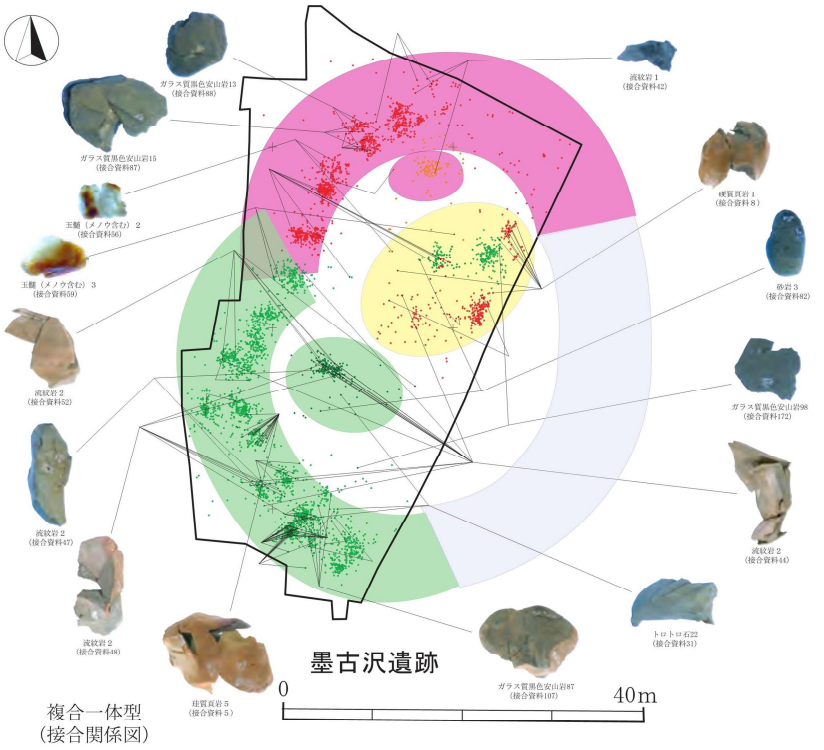
市原市草刈六之台遺跡、袖ケ浦市関畑遺跡。

註（主な参考文献のみ掲載）

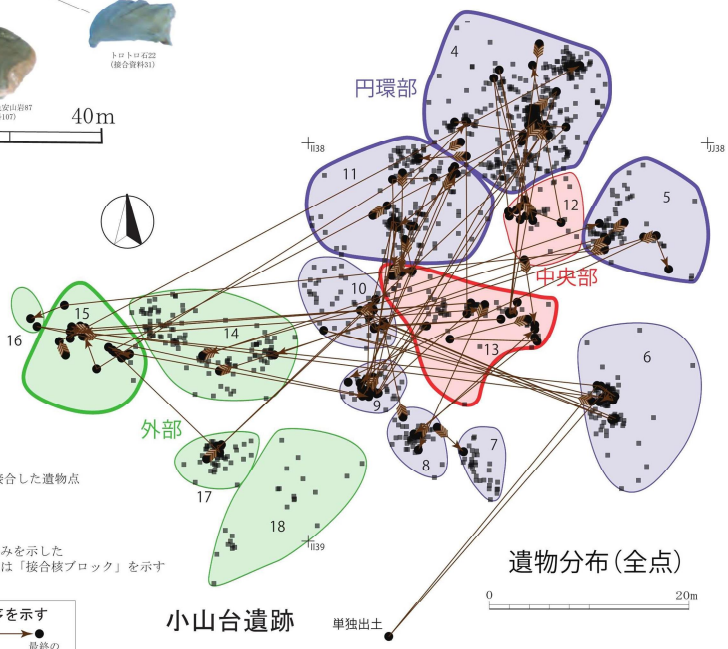
１）新田浩三　2005「酒々井町墨古沢南Ⅰ遺跡　旧石器時代編」『東関東自動車道水戸線酒々井ＰＡ埋蔵文化財発掘調査報告書１』（財）千葉県文化財センター

２）新田浩三　2017「柏市小山台遺跡　旧石器時代編」『柏北部東地区埋蔵文化財発掘調査報告書 10』（公財）千葉県教育振興財団

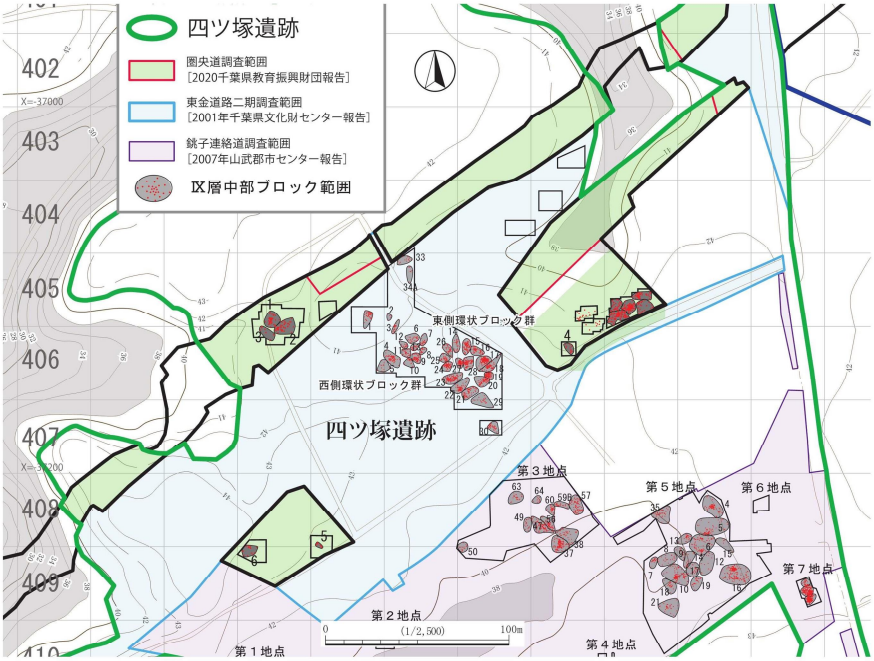
３）新田浩三　2020「成田市夜番Ⅰ遺跡・横芝光町遠山天ノ作遺跡・横芝光町四ツ塚遺跡・山武市四ツ塚遺跡」『首都圏中央連絡自動車道埋蔵文化財調査報告書 36』（公財）千葉県教育振興財団



第１図　墨古沢遺跡
環状ブロック群の集落形成モデル
（複合一体型）



第２図　小山台遺跡
ブロック間接合と剥離順序



第３図　四ツ塚遺跡
Ⅸ層中部のブロック群

墨古沢遺跡の年代と自然環境

学習院女子大学
国際文化交流学部 日本文化学科
准教授　工藤　雄一郎

墨古沢遺跡の年代

千葉県では日本列島でも最も多くの後期旧石器時代の環状ブロック群（53 遺跡 71 箇所）が発見されているが，これまでに出土した炭化物を用いて放射性炭素（^{14}C）年代測定が実施された例はほとんどなかった。しかしながら，遺跡の正確な年代を明らかにすることは，後期旧石器時代の人の動きや文化的な変遷，当時の自然環境などを総合的に考えるうえで極めて重要である。また近年では，後期旧石器時代前半という 3 万年前を遡るような古い時期でも，数mgの微量な炭化物があれば年代測定が可能となっている。^{14}C 年代を正確な暦の年代に変換する暦年較正曲線も数年おきにアップデートされている。そのため，発掘調査で環状ブロック群に伴う炭化材などが検出されれば，遺跡の正確な形成時期を推定することができる。墨古沢遺跡では，これまで数十点の炭化物を範囲確認調査で採取することができた。

筆者等は，これまで墨古沢遺跡の環状ブロック群とその周囲から出土した 31 点の炭化材の ^{14}C 年代測定を実施した。その結果，年代的なまとまりからみて，以下の 5 つのグループに区分された（図 1）。

① 縄文時代以降の攪乱に関係する一群（2 点）
② ^{14}C 年代で 25,000～21,000 年代の一群（6 点）
（約 30,500～25,000 年前）
③ ^{14}C 年代で 28000～27000 年代の一群（2 点）
（約 31,700～31,000 年前）
④ ^{14}C 年代で 30,000～29,000 年代の一群（16 点）
（約 34,000～33,200 年前）
⑤ ^{14}C 年代で 31,000 年代より古い一群（5 点）
（約 35,000 年前より古い）

関東地方や中部・東海地方を中心としてこれまでに集成された後期旧石器時代前半期の ^{14}C 年代測定例と比較してみると，以上の 5 グループのうち④の一群が環状ブロック群の形成時期にもっとも近い可能性が高いと考えた。平成 27～29 年度の調査区は完掘せずに石器群を現地に残していることや，炭化材も明確に炭化物集中を形成しているものだけでなく包含層出土の炭化材が含まれており，複数の ^{14}C 年代測定結果に年代的なばらつきもある。しかし，環状ブロック群での直接的な ^{14}C 年代測定が行われた事例は極めて少なく，墨古沢遺跡の環状ブロック群の形成時期を絞り込めたことは，今回の調査の極めて大きな成果の一つと言えよう。

墨古沢遺跡の自然環境

約 34,000 年前の墨古沢遺跡周辺の自然環境を知るためには，遺跡の近辺の低地や埋没谷などで花粉分析を行い，植生を復元することが必要である。そのため，遺跡周辺に形成された谷でボーリング調査を実施したが，約 34,000 年前前後の堆積物は失われており，花粉分析を実施することはできなかった。しかし，遺跡出土の炭化材の樹種を調べることによって，断片的ではあるが，遺跡周辺の植生が見えてきた。炭化材の樹種同定の結果は，トウヒ属やヒメバラモミといったマツ科の針葉樹が多く，寒冷気候下で生育する樹種が多かった。サクラ属などの落葉広葉樹の炭化材もみらえた。これらのマツ科針葉樹の樹種は現在の千葉県にはもちろん存在しておらず，中部山岳地帯の標高 2000mの山々に分布している。約 34,000 年前は，環境史的にみると最終氷期にあたり，約 24,000 年前頃の最終氷期最寒冷期に向けて，徐々に寒冷化が進んでいく時期にあたる。酒々井町周辺には，寒冷気候を示す針葉樹と，冷温帯性の落葉広葉樹が混じるような針広混交林が広がっていたのだろう。

図 2 は千葉県佐倉市の国立歴史民俗博物館で展示されている約 34,000 年前頃の南関東の風景を復元したイラストである（墨古沢遺跡そのものを復元したものではなく，当該期の南関東平野部での環状ブロック群の形成期の様子をイメージした）。南関東，特に千葉県での 35000 年前～30000 年前前後の古環境を示すデータは多くないが，今後花粉分析等による古環境研究を進めていくなかで，より具体的な自然環境を復元していくことが必要である。

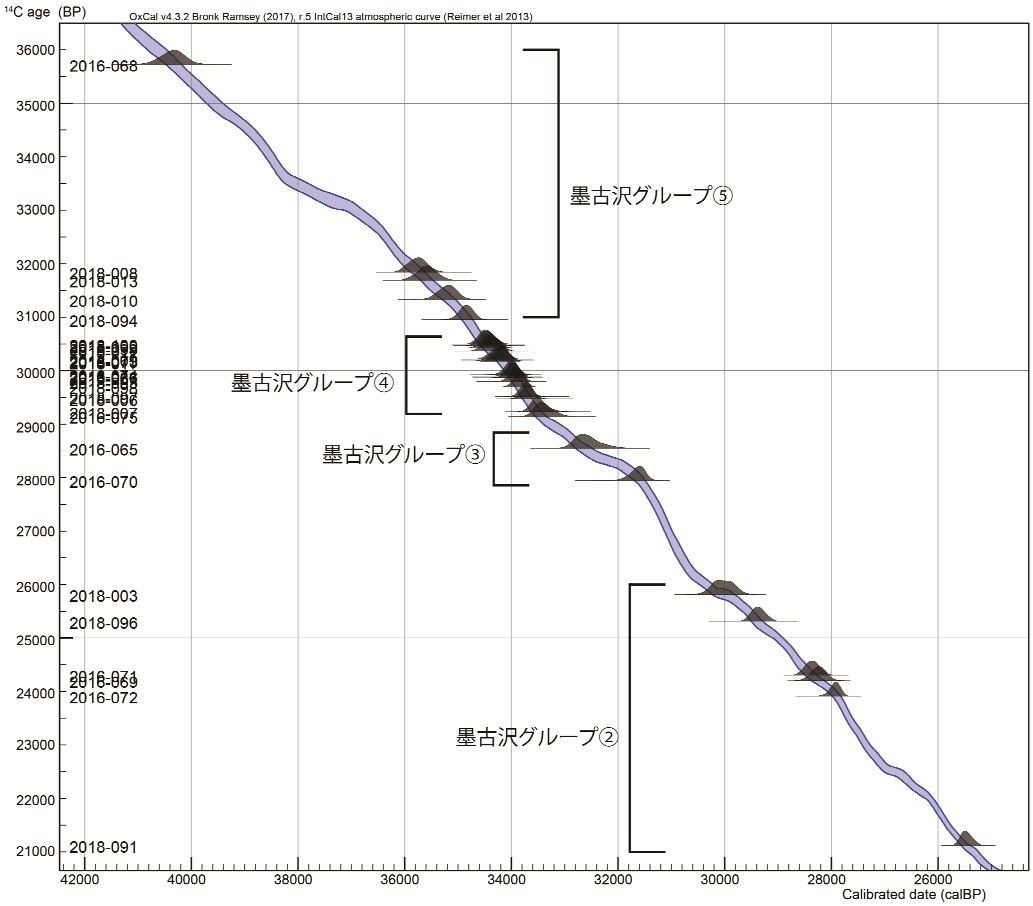


図１　墨古沢遺跡の環状ブロック群とその周辺から出土した炭化材の年代測定結果

図２　墨古沢遺跡の周辺環境をイメージした復元イラスト（石井礼子画，国立歴史民俗博物館）

基調講演

34,000年前、墨古沢は日本の中心であった

東京大学 文学部考古学研究室
教　授　佐藤　宏之

はじめに

2010年に日本旧石器学会が集成した日本列島全体の旧石器時代の遺跡数は、10,150遺跡にのぼる。このうち千葉県が全国一の数となり、988遺跡(9.7%)が登録された。旧石器時代の遺跡には、その良好な立地環境(水源や眺望・景観等)や周囲の豊かな資源(動物等の食料獲得の機会等)に恵まれたことに起因して、異なる時代に何度も繰り返し居住された痕跡(文化層と呼ぶ)が認められることがあるが、千葉県にはそうした遺跡が多い。遺跡数を文化層の総計で測り直すと、列島全域では14,542箇所になるが、このうち千葉県には2,191箇所の旧石器時代遺跡・文化層がある。率にして15%になり、これも全国一である(日本旧石器学会2010)。

千葉県の中でも下総台地にはこうした遺跡・文化層が集中しており、下総台地は旧石器時代を通じて日本の中でもっとも繁栄した地域であった。

環状集落の分布と墨古沢遺跡

日本列島からは、周辺のアジア大陸等に比べて異例なほどの数と密度からなる旧石器時代の遺跡が発見されていることから、当時非常に住みやすく活発な人間の活動が行われていたことが明らかとなっている。当時日本列島は、氷河時代の寒冷気候により100メートル以上の海面低下があり、古北海道半島(サハリン・北海道・クリル諸島南部がアジア大陸から南につながるひとつの半島)・古本州島(本州・四国・九州が一つの島)・古琉球諸島の三つの地理的単位=文化圏に分かれていた。そして旧石器時代を通じて大陸と陸で繋がることのなかった古本州島では、列島独特の旧石器文化が花開いた。そのひとつが環状集落である(佐藤2019)。

墨古沢遺跡が国指定史跡に指定された理由は、後期旧石器時代前半期(38,000～28,000年前)前葉の環状集落のほぼ半分以上が完全な形で保存された日本で唯一の遺跡であったからである。環状集落は、石器のまとまりが径10～80メートルほどのドーナツ状をなして分布する特異な集落であり、後期旧石器時代前半期前葉の古本州島に分布はほとんど限られる。海外では類例は知られていない。中部・関東地方に分布の中心があり、これまで118遺跡から146基の環状集落が発見されているが、墨古沢遺跡以外の全ての環状集落は、発掘調査の過程で失われた。そして千葉県からは下総台地を中心に、53遺跡71基(49%)の環状集落が発見されているのである(村井2019)。

墨古沢遺跡は、下総台地のほぼ中央部に立地し、付近には環状集落が多く分布するが、その中でも中心的な位置にある。南北70メートル、東西60メートルのやや歪んだ楕円形を呈し、その規模は日本最大級である。年代測定の結果、ほぼ34,000年前に居住した集落であることが判明した。

墨古沢遺跡の性格

日本列島の旧石器時代は、氷期の寒冷で不安定な大陸性気候(DOサイクル)に支配されており、古琉球諸島や古本州島の南岸地帯を除いては、針葉樹や草原等が卓越した植生に広く覆われていたため、堅果類のような有用な植物食料資源にきわめて乏しく、そのため生活の中心は動物狩猟にあった。今日とは異なり、旧石器時代の列島には、マンモス・バイソン・ヘラジカ(古北海道半島)やナウマンゾウ、あるいはオオツノシカ・オーロックス(原始牛)などの大型草食動物が生息していた。これらの大型動物は、古本州島では最も寒くなった時期(最終氷期最寒冷期LGM、28,000～24,000年前)の直前までに絶滅し、以降今日までシカやイノシシといった残りの中・小型哺乳動物が分布するようになった。

墨古沢遺跡の時代にはまだ大型動物が生息していたので、環状集落の形成要因として、これらの大型動物を狩猟するために人々が集まった跡であるとする解釈がかつて行われてきたが、そうだとすると、環状集落が特定の時期に特定の場所にまとまって出現する理由を全て説明することができない。例えば環状集落は34,000年前の前後の数千年間に限って出現しているが、大型動物はその後も相当の期間生き残っていたからである(佐藤2019)。

墨古沢遺跡から出土した石器の石材は多様で、そ

の産地は北関東(安山岩・頁岩・玉髄等)を中心に、伊豆・信州(黒曜石)までを含む広域にわたるので、墨古沢に暮らした人々は広範囲を移動する生活を送っていたと考えられる。大型動物が生息していた後期旧石器時代前半期の人々は、これらを狩猟するために広域を移動する生活をおくっていたと考えられることとよく整合している。当時の下総台地は、こうした大型動物を狩猟するのに適した台地と水源が広がっており、そのため人々は盛んに繰り返し下総に集まったのであろう。しかしながら、なぜ特定の時期に環状集落は形成されたのであろうか。

墨古沢遺跡が形成された後期旧石器時代前半期前葉は、日本列島に現生人類ホモ・サピエンスが登場した時期(38,000 年前)のすぐあとに相当するので、おそらくまだ人口はそれほど多くなかったと思われる。そのため人々は、狩猟だけではなく婚姻の相手を求めて、あるいは情報の交換などの必要性から定期的に集合して、集団間の安定した関係(同盟関係)を保つ必要があったと思われる。例えば環状集落は、狩猟等の活動が低下する冬期の村であったのかもしれない。人口が少なかった当時の列島にあって、下総台地は相対的に人口が集中していた。その中で環状集落が発達したのは、環状集落が集団間の緊張関係を調節する装置してよく機能したからであろう(佐藤 2006)。

下総台地からは、ほぼ同時期の後期旧石器時代前半期前葉の遺跡が数多く発見されていることからも、墨古沢遺跡が当時日本の中心のひとつであったことは確かであろう。狩猟を糧としていた人々にとって下総は格好の生活の適地であり、墨古沢はその典型であった。

【引用参考文献】

佐藤宏之　2006 「環状集落の社会生態学」『旧石器研究』2 号、47-54 頁

佐藤宏之　2019 『旧石器時代: 日本文化のはじまり』敬文舎

日本旧石器学会　2010『日本列島の旧石器時代遺跡-日本旧石器(先土器・岩宿)時代遺跡のデータベース』日本旧石器学会

村井大海　2019「第 5 章　考察」『墨古沢遺跡総括報告書』142-161 頁、酒々井町教育委員会

全国環状ブロック群集成 2020

酒々井町教育委員会
生涯学習課　酒井　弘志

平成 30 年度、国史跡指定に向けた墨古沢遺跡の総括報告書（酒井･村井編 2019）作成にあたり、考察において本遺跡の環状ブロック群の特徴を比較・抽出するため全国で検出された環状ブロック群の集成を行い、118 遺跡・146 基の環状ブロック群を確認することができた。その際の集成時においては、報告書で環状ブロック群と明記されていないものや部分的な検出により疑わしきもの含めて取りまとめたが、それは今後の研究の深化・進展のためにまず資料を俎上にのせていかなければならないと考えたからでもある。しかし時間をかけて集成を行ったところではあるが、それでも恥ずかしながら知識・情報収集力不足のため、報告書刊行後にチェック漏れがいくつか出てきていることが明らかになった。

そこで、今回開催するシンポジウムをきっかけに前回の集成漏れやこの数か年で新たに検出されたもの、また前回の総括報告書の集成では紙数の都合上示すことができなかった参考文献を補遺した再集成を実施した（表 1・2、図 1・2）。

遺跡番号や環状ブロック群番号については、前回集成の数字をそのままにし、存在が明らかになったものから地域ごとに分けて随時追加していったため、数字が追いづらくなってしまっているが、令和 2 年 11 月末現在、133 遺跡・163 基を集計した。再集計にあたっては、基本的に前回集成同様、報告書の記載に準じて規模や点数、ブロック数等の掲載を行ったが、分布図や組成表を見直しながら規模・点数等を再計測し、訂正を行ったものもある。

また、今回も各環状ブロック群の“大きさ”に係る属性を明確にするため、類型分けを掲載した。基準は前回にならい下記の通りである。

ブロック数　A類：20 ヶ所以上
　　B類：13～19 ヶ所
　　C類：7～12 ヶ所
　　D類：6 ヶ所以下
出土石器数　Ⅰ類：2000 点以上
　　Ⅱ類：1000 点以上 2000 点未満
　　Ⅲ類：600 点以上 1000 点未満
　　Ⅳ類：600 点未満

各類型を集計したものが表 3 であり、ここからはCⅣ類が最も検出数が多いことがうかがえる。CⅣ類の規模は東西 11～31m・平均約 20m、南北 11～30m・平均約 21mとなることから、はなはだ単純ではあるが、直径約 20m前後、ブロックが 7～12 ヶ所、点数 600 点未満の環状ブロック群が標準的なものと考えられ、ここから見ても墨古沢遺跡の特異性がうかがえるのではないだろうか。

酒々井町では今後も墨古沢遺跡の保存と活用を目指し、調査・研究事業を継続して進めていく予定であり、それが全国で初めて環状ブロック群の国史跡となった当遺跡の責務であると考える。その中で全国の環状ブロック群の情報を引き続き収集し、墨古沢遺跡の意義について考える基礎作業のひとつと位置づけ、粛々と続けていきたいと考えている。皆様からも資料･情報をお寄せいただければ幸いである。

【参考・引用文献】

橋本勝雄 2003「後期旧石器時代前半期の石斧に関する一考察」『研究紀要 3』（財）印旛郡市文化財センター
橋本勝雄 2006「環状ユニットと石斧の関り」『旧石器研究』第 2 号　日本旧石器学会
山岡磨由子 2011「第３章 まとめ」『千葉ニュータウン埋蔵文化財調査報告書ＸＸⅢ－印西市泉北側第 3 遺跡（下層）－』（財）千葉県教育振興財団
麻生敏隆 2012「第４章 まとめと考察」『上武道路・旧石器時代遺跡群（3）　一般国道 17 号（上武道路）改築工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書』(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団
橋本勝雄 2013「総論　環状ユニットの特質とその意義」『考古学ジャーナル』№640　ニュー・サイエンス社
島立　桂 2013「関東地方における環状ブロック群の分布と構造－南関東－」『考古学ジャーナル』№640　ニュー・サイエンス社
村井大海 2019「第５章 考察」『墨古沢遺跡総括報告書－下総台地に現存する日本最大級の旧石器時代環状ブロック群－』酒々井町
軽部達也 2020「北関東地方西部平野部の環状ブロック群」『北関東の環状ブロック群　予稿集』岩宿フォーラム 2020　岩宿博物館（2020.11.8 開催）
（参考・引用文献は年代の古い順に記載）

表1　千葉県内　環状ブロック群集成

令和2年11月（№トーンが追加遺跡）

遺跡№	ブロック群№	遺跡名・地点	所在地（市町村）	円環部推定径 東西（m）	円環部推定径 南北（m）	出土石器ブロック数	出土石器数	遺存率（%）	主要石器 台形様石器	主要石器 ナイフ形石器	主要石器 斧形石器・調整剥片	主要石器 彫刻刀形石器	主要石器 掻器	主要石器 削器	主要石器 石錐	主要石器 石刃	類型	備　考・文　献
1	1	墨古沢遺跡	千葉県印旛郡酒々井町	60	70	61	4386	60	○	○	○	○		○	○		AⅠ	新田浩三2005『東関東自動車道水戸線酒々井PA埋蔵文化財調査報告書1－酒々井町墨古沢南Ⅰ遺跡－旧石器時代編』千葉県文化財センター調査報告第504集 酒井弘志・村井大海編2019『墨古沢遺跡総括報告書ー下総台地に現存する日本最大級の旧石器時代環状ブロック群ー』酒々井町
2	2	中山新田Ⅰ遺跡№2地点	千葉県柏市	16	8	5	72	0			○	○		○			DⅣ	田村　隆他1986『常磐自動車道埋蔵文化財調査報告書Ⅳ－元割・聖人塚・中山新田Ⅰ－』千葉県文化財センター調査報告第112集
	3	中山新田Ⅰ遺跡№3地点	千葉県柏市	14	16	5	182	0	○	○	○	○		○		○	DⅣ	
	4	中山新田Ⅰ遺跡№9地点	千葉県柏市	30	25	15	453	0	○	○	○	○		○		○	BⅣ	
3	5	聖人塚遺跡	千葉県柏市	18	16	6	263	0		○	○			○		○	DⅣ	
4	6	大松遺跡	千葉県柏市	40	54	20	2393	0		○						○	AⅠ	落合章雄2008『柏北部東地区埋蔵文化財発掘調査報告書1－柏市大松遺跡－旧石器時代編』千葉県教育振興財団調査報告第589集
5	7	原山遺跡第Ⅱa文化層	千葉県柏市	38	22	15	456	0	○	○	○				○	○	BⅣ	新田浩三2009『柏北部中央地区埋蔵文化財調査報告書2－柏市原山遺跡－旧石器時代編』千葉県教育振興財団調査報告第631集
6	8	小山台遺跡	千葉県柏市	40	49	15	1672	0	○	○	○			○		○	BⅡ	新田浩三2017『柏北部東地区埋蔵文化財発掘調査報告書10－柏市小山台遺跡－旧石器時代編』千葉県教育振興財団調査報告第763集
7	9	農協前遺跡	千葉県柏市	27	23	12	907	0	○	○	○						CⅢ	島立　桂2011『柏北部中央地区埋蔵文化財調査報告書3－柏市農協前遺跡－旧石器時代編』千葉県教育振興財団調査報告第657集
53	71	翁原遺跡	千葉県柏市	－	－	－	－	－									－	詳細不明 小笠原永隆2016「千葉県」『日本考古学年報67（2014年度版）』日本考古学協会
8	10	下矢切東台遺跡第4～8ブロック	千葉県松戸市	(58)	(58)	5	34	不明									－	南側の一部を検出。推定径約58m。 落合章雄他2009『東京外かく環状道路埋蔵文化財調査報告書1－松戸市上矢切南台遺跡・下矢切東台遺跡－』千葉県教育振興財団調査報告第627集
9	11	市野谷芋久保遺跡	千葉県流山市	29	31	19	1668	0	○	○	○			○			BⅡ	新田浩三他2015『流山新市街地地区埋蔵文化財調査報告書7－流山市市野谷芋久保遺跡・市野谷中島遺跡(上層)・市野谷向山遺跡(上層)・市野谷立野遺跡・大久保遺跡(上層)・西初石五丁目遺跡・東初石六丁目遺跡(上層)・十太夫第Ⅰ遺跡・十太夫第Ⅲ遺跡』千葉県教育振興財団調査報告第735集
126	155	思井上ノ内遺跡L56ブロック	千葉県流山市	(22)	(22)	6	147	不明	○					○			－	南西側の一部を検出。推定直径約22m。 島立　桂他2016『流山運動公園周辺地区埋蔵文化財調査報告書3－流山市思井上ノ内遺跡－』千葉県教育委員会埋蔵文化財調査報告第11集
10	12	五本松№3遺跡	千葉県鎌ケ谷市	18	27	9	720	0	○	○	○			○		○	CⅢ	矢本節朗他2003『新鎌ヶ谷地区埋蔵文化財調査報告書Ⅰ－鎌ヶ谷市五本松№3遺跡－』千葉県文化財センター調査報告第457集 矢本節朗他2005『新鎌ヶ谷地区埋蔵文化財調査報告書Ⅱ－鎌ヶ谷市五本松№3遺跡2－』千葉県文化財センター調査報告第525集
127	156	林跡遺跡第8～11ブロック	千葉県鎌ケ谷市	9	13	4	127	0		○	○			○	○		DⅣ	高橋博文1992『千葉ニュータウン埋蔵文化財調査報告書Ⅺ　林跡遺跡』千葉県文化財センター調査報告第205集
11	13	泉北側第3遺跡	千葉県印西市	46	68	38	1474	0	○	○	○		○	○			AⅡ	山岡磨由子2011『千葉ニュータウン埋蔵文化財調査報告書ＸＸⅢ－印西市泉北側第3遺跡（下層）－』千葉県教育振興財団調査報告第650集
12	14	松崎Ⅱ遺跡第2・4～6地点	千葉県印西市	(43)	43	4	136	60	○		○			○	○		－	南北で対向する第2及び第4・5・6地点で環状か。推定径約43m。 古内　茂他2003『松崎地区内陸工業用地造成整備事業埋蔵文化財調査報告書1-印西市松崎Ⅱ遺跡-』千葉県文化財センター調査報告第445集

表1　千葉県内　環状ブロック群集成

令和2年11月（№トーンが追加遺跡）

遺跡№	ブロック群№	遺跡名・地点	所在地（市町村）	円環部推定径 東西（m）	円環部推定径 南北（m）	出土石器ブロック数	出土石器数	遺存率（%）	主要石器 台形様石器	主要石器 ナイフ形石器	主要石器 斧形石器・調整剥片	主要石器 彫刻刀形石器	主要石器 掻器	主要石器 削器	主要石器 石錐	主要石器 石刃	類型	備　考・文　献
13	15	瀧水寺裏遺跡北側環状ブロック群	千葉県印西市	15	15	6	48	0	○	○	○						DⅣ	酒井弘志他2004『瀧水寺裏遺跡－本埜村道改良工事に伴う埋蔵文化財調査－』印旛郡市文化財センター発掘調査報告書第208集
	16	瀧水寺裏遺跡南側環状ブロック群	千葉県印西市	17	16	11	546	0	○	○	○			○		○	CⅣ	
14	17	角田台遺跡第9地点	千葉県印西市	65	60	10	1172	0	○	○	○		○	○		○	CⅡ	古内　茂2012『千葉ニュータウン埋蔵文化財調査報告書ＸＸⅥ－印西市角田台遺跡（旧石器・縄文時代編）』千葉県教育振興財団調査報告第685集
	18	角田台遺跡第11地点	千葉県印西市	20	22	11	927	0		○	○	○	○			○	CⅢ	
15	19	芝山遺跡第1ブロック	千葉県八千代市	18	(16)	5	194	40	○	○	○						DⅣ	北側の約2/3を検出。南北推定径16m。 落合章雄1989『八千代市仲ノ台遺跡・芝山遺跡－東葉高速鉄道引込み線および車庫用地内埋蔵文化財調査報告書－』千葉県文化財センター調査報告第176集
	20	芝山遺跡第2ブロック	千葉県八千代市	(35)	(35)	5	180	50	○	○	○						－	西側の約1/2を検出。推定径約35m。 参考文献同上。
16	21	ヲサル山遺跡第21ブロック	千葉県八千代市	11	12	3	22	0			○			○	○		DⅣ	阪田正一・藤岡孝司1986『八千代市ヲサル山遺跡－萱田地区埋蔵文化財調査報告書Ⅲ－』千葉県文化財センター調査報告第116集
17	22	坊山遺跡第5文化層S41～44・60～65	千葉県八千代市	22	20	10	708	0	○	○	○			○		○	CⅢ	大野康男1993『八千代市坊山遺跡－萱田地区埋蔵文化財調査報告書Ⅵ－』千葉県文化財センター調査報告第226集
18	23	白幡前遺跡第5文化層S21・S23地点	千葉県八千代市	(30)	(30)	3	227	60	○		○			○			－	北東側約1/3を検出。推定径約30m。 大野康男・田村　隆他1991『八千代市白幡前遺跡－萱田地区埋蔵文化財調査報告書Ｖ－』千葉県文化財センター調査報告第188集
19	24	西芝山南遺跡Ⅲ区	千葉県八千代市	22	27	12	417	0		○						○	CⅣ	島立　桂他2012『西八千代北部地区埋蔵文化財調査報告書2－八千代市西芝山南遺跡－』千葉県教育振興財団調査報告第693集
	25	西芝山南遺跡Ⅳ区	千葉県八千代市	14	21	10	208	0		○							CⅣ	
20	26	御山遺跡第2ブロック	千葉県四街道市	22	21	11	485	0	○		○		○		○	○	CⅣ	矢本節朗他1994『四街道市御山遺跡(1)－物井地区埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅰ－』千葉県文化財センター調査報告第242集
21	27	池花南遺跡	千葉県四街道市	30	28	18	740	0	○	○	○			○			BⅢ	渡辺修一1991『四街道市内黒田遺跡群－内黒田特定土地区画整理事業地内埋蔵文化財発掘調査報告書－』千葉県文化財センター調査報告第200集
22	28	小屋ノ内遺跡第1地点	千葉県四街道市	46	52	11	628	0	○	○	○			○			CⅢ	古内　茂他2005『四街道市小屋ノ内遺跡(1)旧石器時代編－物井地区埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅲ－』千葉県文化財センター調査報告第499集
23	29	出口・鐘塚遺跡石器集中4	千葉県四街道市	29	23	10	401	0	○	○	○		○	○			CⅣ	岡田誠造1999『四街道市出口・鐘塚遺跡－物井地区埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅱ－』千葉県文化財センター調査報告第357集
24	30	天神峰最上（空港№64）遺跡石器集中04	千葉県成田市	15	25	10	123	0	○		○			○			CⅣ	永塚俊司他2001『新東京国際空港埋蔵文化財発掘調査報告書ＸＶ－天神峰最上遺跡（空港№64遺跡）－』千葉県文化財センター調査報告第405集
25	31	十余三稲荷峰西（空港№68）遺跡石器集中	千葉県成田市	24	24	9	143	0	○	○		○		○			CⅣ	永塚俊司他2000『新東京国際空港埋蔵文化財発掘調査報告書ＸⅡ－十余三稲荷峰西遺跡（空港№68遺跡－）』千葉県文化財センター調査報告第386集
	32	十余三稲荷峰西（空港№68）遺跡石器集中	千葉県成田市	16	20	10	199	0	○								CⅣ	永塚俊司他2003『新東京国際空港埋蔵文化財発掘調査報告書ＸⅧ　香山新田新山遺跡（空港№10遺跡）　十余三稲荷峰西遺跡（空港№68遺跡）』千葉県文化財センター調査報告第447集
26	33	東峰御幸畑西遺跡（空港№61）エリア2	千葉県成田市	30	26	11	869	0	○	○	○			○			CⅢ	永塚俊司他2000『新東京国際空港埋蔵文化財発掘調査報告書ＸⅢ－東峰御幸畑西遺跡(空港№61遺跡)－』千葉県文化財センター調査報告第385集
	34	東峰御幸畑西遺跡（空港№61）エリア3	千葉県成田市	24	27	8	240	0	○		○			○			CⅣ	

表1　千葉県内　環状ブロック群集成

令和2年11月（№.トーンが追加遺跡）

遺跡№.	ブロック群№.	遺跡名・地点	所在地（市町村）	円環部推定径 東西（m）	円環部推定径 南北（m）	出土石器ブロック数	出土石器数	遺存率（%）	主要石器 台形様石器	主要石器 ナイフ形石器	主要石器 斧形石器・調整剥片	主要石器 彫刻刀形石器	主要石器 掻器	主要石器 削器	主要石器 石錐	主要石器 石刃	類型	備　考・文　献
27	35	金沢台遺跡	千葉県山武郡芝山町	20	20	8	306	0	○	○	○					○	CⅣ	石倉亮治・永塚俊司2004『建設センター・保全事務所用地内埋蔵文化財調査報告書　芝山町金沢台遺跡』千葉県文化財センター調査報告第476集
28	36	南三里塚宮原第1遺跡第1環状ブロック群	千葉県成田市	48	41	29	632	0	○	○	○			○		○	AⅢ	宇井義典他2004『南三里塚宮原第1・第2遺跡－(仮)南三里塚物流基地建設予定地内埋蔵文化財調査－』印旛郡市文化財センター発掘調査報告書第604集
	37	南三里塚宮原第1遺跡第2環状ブロック群	千葉県成田市	21	22	8	135	0	○	○						○	CⅣ	
	38	南三里塚宮原第1遺跡第3環状ブロック群	千葉県成田市	24	19	11	299	0	○	○	○			○		○	CⅣ	
29	39	古込（空港№.55）遺跡	千葉県成田市	10	10	5	25	0		○	○	○		○			DⅣ	古内　茂他1971『三里塚　新東京国際空港用地内の考古学的調査』(財)千葉県北総公社
30	40	獅子穴Ⅱ遺跡	千葉県富里市	60	50	13	1805	0	○	○							BⅡ	篠原　正1988『獅子穴Ⅱ遺跡－富里町中央公園予定地内埋蔵文化財調査－』印旛郡市文化財センター発掘調査報告書第18集
31	41	腰巻遺跡Fブロック	千葉県佐倉市	16	17	6	65	0						○		○	DⅣ	石倉亮治1987『佐倉市腰巻遺跡－佐倉第三工業団地造成に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅴ－』千葉県文化財センター調査報告
32	42	大堀遺跡第1地点	千葉県佐倉市	(22)	(22)	3	150	不明		○	○	○					－	北西側の一部を検出。推定径約22m。 田村　隆他1989『佐倉市南志津地区埋蔵文化財発掘調査報告書1－佐倉市御塚山・大林・大堀・西野・芋窪遺跡－』千葉県文化財センター調査報告第152集
33	43	四ツ塚遺跡西側環状ブロック群	千葉県山武市	16	18	8	248	0	○	○	○			○			CⅣ	西口　徹他2001『千葉東金道路（二期）埋蔵文化財調査報告書7－松尾町・横芝町四ツ塚遺跡・松尾町千神塚群－』千葉県文化財センター調査報告第402集
	44	四ツ塚遺跡東側環状ブロック群	千葉県山武市	29	36	16	1381	0	○	○	○						BⅡ	
34	45	八幡神社北（1）遺跡石器集中1・2	千葉県山武市	20	25	3	58	30			○						DⅣ	永塚俊司他2009『両総農業水利事業第3揚水機場建設工事埋蔵文化財調査報告書2－山武市八幡神社北(1)・(2)・(3)遺跡－』千葉県教育振興財団調査報告第608集
128	157	赤羽根遺跡5F-08グリッド周辺	千葉県山武郡松尾町	20	17	13	1370	0	○	○				○			BⅡ	田島　新他2003『千葉東金道路（二期）埋蔵文化財調査報告書12-松尾町赤羽根遺跡-』千葉県文化財センター調査報告第440集
35	46	大道遺跡第1ユニット	千葉県千葉市	(68)	(68)	3	271	70					○			○	－	北東側の約1/4を検出。推定径約68m。 榊原弘二・白石　浩1983『千葉市大道遺跡・生実城跡発掘調査報告書』千葉県文化財センター調査報告第59集
36	47	鎌取遺跡第1ブロック群	千葉県千葉市	14	20	4	316	0	○	○						○	DⅣ	上守秀明・出口雅人編1993『千葉東南部ニュータウン18－鎌取遺跡－』千葉県文化財センター調査報告第222集
37	48	有吉城跡第28地点	千葉県千葉市	(14)	(14)	3	43	不明	○		○			○			－	南西側の一部を検出。推定径約14m。 島立　桂他2004『千葉東南部ニュータウン29－千葉市バクチ穴遺跡・大膳野南貝塚・有吉城跡2（旧石器時代）－』千葉県文化財センター調査報告第467集
38	49	城ノ台遺跡第1地点	千葉県千葉市	(34)	(34)	3	232	不明						○			－	南側の一部を検出。推定径約34m。 島立　桂他2006『千葉東南部ニュータウン34－千葉市城ノ台遺跡－』千葉県教育振興財団調査報告第539集
39	50	押沼大六天遺跡A5-Aブロック	千葉県市原市	43	20	9	715	50	○		○						CⅢ	田島　新・島立　桂2006『千原台ニュータウンⅩⅤ－市原市押沼大六天遺跡（下層）－』千葉県教育振興財団調査報告第536集
	51	押沼大六天遺跡C3-Aブロック	千葉県市原市	42	37	12	1582	0		○	○		○			○	CⅡ	
40	52	草刈遺跡D区	千葉県市原市	13	12	5	200	0	○	○	○						DⅣ	島立　桂2003『千原台ニュータウンⅩ－市原市草刈遺跡（東部地区旧石器時代）－』千葉県文化財センター調査報告第462集
41	53	草刈六之台遺跡Jブロック	千葉県市原市	9	9	5	90	0			○				○		DⅣ	島立　桂他1994『千原台ニュータウンⅥ－草刈六之台遺跡－』千葉県文化財センター調査報告第241集
	54	草刈六ノ台遺跡Nブロック	千葉県市原市	11	10	4	175	10			○						DⅣ	
	55	草刈六之台遺跡Eブロック	千葉県市原市	14	22	5	704	40		○	○	○		○		○	DⅢ	

表1　千葉県内　環状ブロック群集成

令和2年11月（№.トーンが追加遺跡）

遺跡№.	ブロック群№.	遺跡名・地点	所在地（市町村）	円環部推定径 東西（m）	円環部推定径 南北（m）	出土石器ブロック数	出土石器数	遺存率（%）	主要石器 台形様石器	主要石器 ナイフ形石器	主要石器 斧形石器・調整剥片	主要石器 彫刻刀形石器	主要石器 掻器	主要石器 削器	主要石器 石錐	主要石器 石刃	類型	備考・文献
42	56	細山(2)遺跡C1ブロック	千葉県市原市	12	13	7	99	0		○			○	○		○	CⅣ	豊田秀治他2000『東関東自動車道（千葉・富津線）埋蔵文化財調査報告書5-市原市中伊沢遺跡・百目木遺跡・下椎木遺跡・志保知山遺跡・ヤジ山遺跡・細山(1)(2)遺跡-』千葉県文化財センター調査報告第383集
	57	細山(2)遺跡C2ブロック	千葉県市原市	14	19	7	147	0		○	○		○	○		○	CⅣ	
43	58	中潤ヶ広遺跡(1)第10ブロック	千葉県市原市	14	16	5	163	0		○						○	DⅣ	田島　新他2007『潤井戸地区埋蔵文化財調査報告書Ⅲ－市原市中潤ヶ広遺跡（下層）－』千葉県教育振興財団調査報告第582集
44	59	大網山田台遺跡№.8地点68・69ブロック	千葉県大網白里市	24	26	7	317	0		○	○		○	○	○	○	CⅣ	青木幸一・吉田直哉他1994『大網山田台遺跡群Ⅰ－旧石器時代篇－』さんぶ考古資料刊行会
45	60	葭山遺跡	千葉県千葉市	(35)	(28)	9	152	50		○	○			○		○	-	南側約1/2を検出か。推定径約35×28m。 簗瀬裕一他1996「葭山遺跡」『土気南遺跡群Ⅷ』千葉市文化財調査協会
46	61	西大野遺跡第1C区	千葉県千葉市	(26)	(26)	4	169	不明			○						―	北西側の一部を検出。推定径約26m。 西口　徹1994『土気緑の森工業団地内発掘調査報告書』千葉県文化財センター調査報告第253集
47	62	東大野第2遺跡	千葉県千葉市	60	60	29	792	0	○					○			AⅢ	西口　徹1994『土気緑の森工業団地内発掘調査報告書』千葉県文化財センター調査報告第253集
48	63	台山遺跡第2ユニット	千葉県袖ケ浦市	29	30	8	456	10		○				○		○	CⅣ	新田浩三他2002『東関東自動車道（千葉・富津線）埋蔵文化財調査10－袖ヶ浦市台山遺跡－』千葉県文化財センター調査報告第435集
	64	台山遺跡第3ユニット	千葉県袖ケ浦市	20	18	7	153	10		○		○				○	CⅣ	
49	65	関畑遺跡Aユニット	千葉県袖ケ浦市	13	12	6	825	0	○	○							DⅢ	新田浩三・小久貫隆史2004『東関東自動車道（千葉・富津線）埋蔵文化財調査13－袖ヶ浦市関畑遺跡－』千葉県文化財センター調査報告第484集
	66	関畑遺跡Bユニット	千葉県袖ケ浦市	(20)	20	7	556	50	○	○	○						CⅣ	西側約1/2を検出。推定径約20m。 参考文献同上。
50	67	文脇遺跡石器集中地点Ⅱ～Ⅳ	千葉県袖ケ浦市	(54)	(54)	6	134	不明	○		○				○		―	南西側の一部を調査か。推定径約54m。 加藤正信・大谷弘幸1995『袖ヶ浦市文脇遺跡-主要地方道千葉鴨川線県単道路改良（幹線道路網整備）工事に伴う埋蔵文化財調査報告書-』千葉県文化財センター調査報告第266集
51	68	鉢ヶ谷第5地点第Ⅰ文化層	千葉県東金市	17	11	9	279	0		○		○	○	○		○	CⅣ	吉田直哉2001『小野山田遺跡群Ⅲ（第2分冊）-先土器時代篇-』山武郡市文化財センター発掘調査報告書第71集
	69	鉢ヶ谷第5地点第Ⅱ文化層	千葉県東金市	14	11	9	106	0			○	○					CⅣ	
52	70	土持台遺跡Aブロック	千葉県香取郡多古町	12	13	8	113	0			○			○			CⅣ	三浦和信1986『多古工業団地内遺跡群発掘調査報告書－林小原子台・巣根・土持台・林中ノ台・吹入台－』千葉県文化財センター調査報告第102集

56　74
遺跡　基（千葉県内）

表2　千葉県外　環状ブロック群集成

令和2年11月（№.トーンが追加遺跡）

遺跡№.	ブロック群№.	遺跡名・地点	所在地（市町村）	円環部推定径		出土石器ブロック数	出土石器数	遺存率（%）	主要石器								類型	備　考・文　献
				東西（m）	南北（m）				台形様石器	ナイフ形石器	斧形石器・調整剥片	彫刻刀形石器	掻器	削器	石錐	石刃		
54	72	共栄3遺跡	北海道上川郡清水町	45	34	8	1539	0	○				○	○			CⅡ	山原敏朗他1992『清水町 上清水2遺跡・共栄3遺跡(2)・東松沢2遺跡、芽室町 北明1遺跡 －北海道横断自動車道埋蔵文化財発掘調査報告書－』(財)北海道埋蔵文化財センター調査報告書第76集
55	73	家の下遺跡	秋田県山本郡三種町	25	32	16	16979	0	○	○		○	○	○		○	BⅠ	高橋　学・五十嵐一治1998『家の下遺跡(2)　旧石器時代編－県営ほ場整備事業(琴丘地区)に係る埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅲ-』秋田県文化財調査報告書第275集
56	74	地蔵田遺跡	秋田県秋田市	20	28	14	4447	10	○	○	○		○	○		○	BⅠ	神田和彦他2011『地蔵田遺跡－旧石器時代編－』秋田市教育委員会
57	75	愛宕山遺跡	岩手県北上市	22	(22)	9	2098	70	○	○	○		○	○		○	－	環状部中央を通る東西トレンチで一部を検出。推定径約22m。 佐藤嘉広他1993『北上市和賀町愛宕山遺跡発掘調査報告書』岩手県立博物館調査研究報告書第9冊　岩手県立博物館
58	76	南部工業団地内遺跡U区	岩手県北上市	36	32	31	5733	0			○					○	AⅠ	杉本　良・高橋香里1997『南部工業団地内遺跡Ⅲ』北上市埋蔵文化財調査報告第27集　北上市教育委員会
59	77	笹山原№.8遺跡	福島県会津若松市	14	10	6	216	0	○	○	○					○	DⅣ	柳田俊雄1995「会津笹山原遺跡の旧石器時代石器群の研究-石刃技法を主体とする石器群を中心に-」『郡山女子大学紀要』31-2　郡山女子大学 藤原妃敏他1999『福島県の旧石器時代遺跡』福島県立博物館調査報告書第34集　福島県立博物館
60	78	大谷上ノ原遺跡 第2ブロック、L33、M32・33、N33グリッド	福島県双葉郡楢葉町	34	30	5	273	30	○		○	○					DⅣ	伊藤典子他2001『常磐自動車道遺跡調査報告26　大谷上ノ原遺跡(1次調査)・新堤入遺跡』福島県文化財調査報告書第379集
61	79	大志白遺跡群第7地区	栃木県宇都宮市	14	12	6	397	0	○	○				○			DⅣ	戸田正勝2000『大志白遺跡群発掘調査報告書　アンビックス緑が丘ニュータウン造成に伴う発掘調査(旧石器時代編)』河内町埋蔵文化財調査報告書第3集　河内町教育委員会
62	80	上林遺跡	栃木県佐野市	50	80	64	3480	0	○	○	○	○	○	○		○	AⅠ	出居　博他2004『上林遺跡-佐野新都市開発整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書-』佐野市埋蔵文化財調査報告書第30集　佐野市教育委員会
63	81	小倉水神社裏遺跡第1～第5ユニット	栃木県栃木市	17	15	5	101	10								○	DⅣ	塚本師也1990『小倉水神社裏遺跡・水木東遺跡　宇都宮西中核工業団地建設に伴う発掘調査』栃木県埋蔵文化財調査報告第109集
64	82	並松遺跡B地点	栃木県芳賀郡茂木町	15	15	5	1113	0		○							DⅡ	毎澤信博1997「並松遺跡」『茂木町史　第二巻　資料編1　原始古代・中世』茂木町 茂木町史編さん委員会2001「旧石器時代の茂木」『茂木町史　第五巻　通史編1　原始古代・中世・近世』茂木町
65	83	鹿野場遺跡	茨城県日立市	21	16	9	2129	0	○		○		○			○	CⅠ	舘野　孝他1979『日立市鹿野場遺跡発掘調査報告書』日立市文化財調査報告第6集　日立市教育委員会
66	84	分郷八崎遺跡第1集中地点	群馬県渋川市	18	19	9	257	0	○	○	○			○			CⅣ	右島和夫他1986『分郷八崎遺跡　関越自動車道(新潟線)地域埋蔵文化財発掘調査報告書』北橘村教育委員会
67	85	和田遺跡	群馬県みどり市	14	14	5	154	0	○								DⅣ	笠懸村誌刊行委員会1983『笠懸村誌　別巻一　資料編　自然篇・原始古代篇』笠懸村
68	86	十二社遺跡	群馬県桐生市	22	19	16	400	0	○	○	○					○	BⅣ	加部二生・大工原豊1992「群馬県新里村十二社遺跡の調査」『第5回長野県旧石器文化研究交流会-発表要旨-』長野県旧石器文化研究交流会

表2　千葉県外　環状ブロック群集成

令和2年11月（No.トーンが追加遺跡）

遺跡No.	ブロック群No.	遺跡名・地点	所在地（市町村）	円環部推定径 東西（m）	円環部推定径 南北（m）	出土石器ブロック数	出土石器数	遺存率（%）	主要石器 台形様石器	主要石器 ナイフ形石器	主要石器 斧形石器・調整剥片	主要石器 彫刻刀形石器	主要石器 掻器	主要石器 削器	主要石器 石錐	主要石器 石刃	類型	備考・文献
69	87	武井遺跡北ブロック	群馬県桐生市	28	39	10	100	20		○	○			○		○	CⅣ	礫群9基を含む。南東側の一部が未調査。 加部二生・小菅将夫1995「武井遺跡」『第2回石器文化研究交流会-発表要旨-』石器文化研究会 加部二生1998「武井遺跡の調査概要-新里村教育委員会の調査を中心として-」『武井遺跡と北関東の槍先形尖頭器文化　予稿集』第6回岩宿フォーラム/シンポジウム　笠懸野岩宿文化資料館 阿久澤智和・加部二生2020「武井遺跡の環状ブロック群」『北関東の環状ブロック群　予稿集』岩宿フォーラム2020　岩宿博物館
	158	武井遺跡南ブロック	群馬県桐生市	(50)	(50)	9	170	25		○				○		○	－	東側約1/2を検出。北西側約1/4を攪乱により失われる。南西側約1/4は未調査。推定径約50m。 阿久澤智和・加部二生2020「武井遺跡の環状ブロック群」『北関東の環状ブロック群　予稿集』岩宿フォーラム2020　岩宿博物館
70	88	下触牛伏遺跡第Ⅱ文化層	群馬県伊勢崎市	43	40	15	2037	0	○	○	○	○	○			○	BⅠ	岩崎泰一他1986『下触牛伏遺跡　身体障害スポーツセンター建設予定地内埋蔵文化財発掘調査報告書』群馬県埋蔵文化財調査事業団第51集
71	89	今井三騎堂遺跡第Ⅳ文化層B地点	群馬県伊勢崎市	40	35	16	414	0									BⅣ	岩崎泰一他2004『今井三騎堂遺跡-旧石器時代編-多田山丘陵開発に伴う埋蔵文化財調査報告書第2集』群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告第325集
	90	今井三騎堂遺跡第Ⅳ文化層C地点	群馬県伊勢崎市	40	55	13	823	0	○	○	○		○	○		○	BⅢ	
72	91	三和工業団地Ⅰ遺跡第4文化層	群馬県伊勢崎市	72	64	25	1724	0	○	○	○	○	○			○	AⅡ	津島秀章他1999『三和工業団地Ⅰ遺跡(1)-旧石器時代編ー三和工業団地造成事業に伴う三和工業団地Ⅰ遺跡埋蔵文化財発掘調査報告書第1集』群馬県埋蔵文化財調査事業団発掘調査報告書第246集
73	92	波志江西宿遺跡3期	群馬県伊勢崎市	24	20	5	391	0	○	○						○	DⅣ	麻生敏隆・桜井美枝2004『波志江西宿遺跡Ⅱ（縄文時代・旧石器時代編）北関東自動車道（高崎～伊勢崎）地域埋蔵文化財発掘調査報告書第23集』群馬県埋蔵文化財調査事業団発掘調査報告書第330集
74	93	舞台遺跡E区1群	群馬県伊勢崎市	24	26	8	206	0		○	○	○	○			○	CⅣ	麻生敏隆他2005『舞台遺跡(3)　舞台遺跡（縄文時代・旧石器時代編）・大井戸遺跡　北関東自動車道（高崎～伊勢崎）地域埋蔵文化財発掘調査報告書第30集』群馬県埋蔵文化財調査事業団発掘調査報告書第345集
	151	舞台遺跡E区2群	群馬県伊勢崎市	31	19	7	258	0		○	○					○	CⅣ	
75	94	古城遺跡ⅠA区	群馬県安中市	10	12	6	86	20		○							DⅣ	大工原豊他1988『古城遺跡ー安中古城住宅団地造成事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書』安中市教育委員会
76	95	古城遺跡ⅠC区	群馬県安中市	16	22	14	523	0		○	○			○			BⅣ	
77	96	白岩民部遺跡B区	群馬県高崎市	35	40	9	726	0		○		○		○		○	CⅢ	関口美枝他2000『白川笹塚遺跡・白岩浦久保遺跡・白岩民部遺跡　北陸新幹線建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書第14集』群馬県埋蔵文化財調査事業団発掘調査報告書第266集
78	97	三ツ子沢中遺跡	群馬県高崎市	18	21	10	541	0	○	○	○			○			CⅣ	松村和男他2000『三ッ子沢中遺跡　北陸新幹線地域埋蔵文化財発掘調査報告書第12集』群馬県埋蔵文化財調査事業団発掘調査報告書第260集
79	98	白川傘松遺跡Ⅱ地区	群馬県高崎市	24	22	9	599	0	○					○		○	CⅣ	麻生敏隆他1997『白川傘松遺跡　北陸新幹線建設工事に伴う埋蔵文化財調査発掘調査報告書第4集』(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書第204集
80	99	多比良追部野遺跡F区	群馬県高崎市	15	13	10	422	0	○	○			○	○		○	CⅣ	関口博幸・桜井美枝他1997『関越自動車道(上越線)地域埋蔵文化財発掘調査報告書第40集　田比良追部野遺跡』群馬県埋蔵文化財調査事業団発掘調査報告書第213集

表2　千葉県外　環状ブロック群集成

令和2年11月（№.トーンが追加遺跡）

遺跡№.	ブロック群№.	遺跡名・地点	所在地（市町村）	円環部推定径 東西（m）	円環部推定径 南北（m）	出土石器ブロック数	出土石器数	遺存率（%）	主要石器 台形様石器	主要石器 ナイフ形石器	主要石器 斧形石器・調整剥片	主要石器 彫刻刀形石器	主要石器 掻器	主要石器 削器	主要石器 石錐	主要石器 石刃	類型	備　考・文　献
81	100	藤岡北山遺跡1～9ブロック	群馬県藤岡市	25	22	9	325	0	○	○			○	○		○	DⅣ	志村　哲他1987『国道254号線埋蔵文化財発掘調査報告書　A6白塩道南遺跡・A2藤岡北山遺跡』藤岡市教育委員会 中島　誠・軽部達也1993「藤岡北山遺跡」『藤岡市史　資料編　原始・古代・中世』藤岡市 志村　哲・大工原豊1988「藤岡北山遺跡」『群馬県史　資料編1　原始古代1』群馬県
122	150	藤岡北山B遺跡第1文化層第3石器集中地	群馬県藤岡市	20	16	14	664	0		○		○		○		○	BⅢ	軽部達也他1995『藤岡北山B遺跡－県有文化施設みかぼみらい館建設に伴う発掘調査報告書』藤岡市教育委員会
129	159	白石北原遺跡	群馬県藤岡市	(28)	(28)	4		0	○	○							－	調査した4か所のブロックで推定。推定径約28m。 軽部達也2012『白石北原遺跡（旧石器時代編）』藤岡市教育委員会 関口博幸2020「群馬県鏑川流域の環状ブロック群」『北関東の環状ブロック群　予稿集』岩宿フォーラム2020　岩宿博物館
130	160	三ツ木東原遺跡	群馬県藤岡市	(23)	(23)	－	－	－									－	詳細不明。推定径約23m。 新井　仁2019「群馬県」『日本考古学年報70（2017年度版）』日本考古学協会 文挟健太郎2020「群馬県」『日本考古学年報71（2018年度版）』日本考古学協会 軽部達也2020「北関東地方西部平野部の環状ブロック群」『北関東の環状ブロック群　予稿集』岩宿フォーラム2020　岩宿博物館
82	101	白倉下原遺跡A区	群馬県甘楽郡甘楽町	18	18	6	403	0	○	○	○			○		○	DⅣ	関口博幸他1994『関越自動車道（上越線）地域埋蔵文化財発掘調査報告書第21集　白倉下原・天引向原遺跡Ⅰ・天引狐崎遺跡Ⅰ－甘楽パーキングエリア地内遺跡の調査－旧石器時代編』群馬県埋蔵文化財調査事業団発掘調査報告書第161集
	102	白倉下原遺跡B区	群馬県甘楽郡甘楽町	16	16	4	120	0	○	○	○			○		○	DⅣ	
83	103	天引向原遺跡A区	群馬県甘楽郡甘楽町	30	26	13	268	0	○	○			○	○			BⅣ	
84	104	天引狐崎遺跡第1ブロック群	群馬県甘楽郡甘楽町	16	16	7	522	0	○	○				○			CⅣ	
85	105	今井見切塚遺跡第Ⅳ文化層1a地点	群馬県前橋市	38	45	37	1487	10	○	○	○	○	○			○	AⅡ	岩崎泰一・津島秀章2007『今井見切塚遺跡－旧石器時代編－多田山丘陵開発に伴う埋蔵文化財調査報告書第5集』群馬県埋蔵文化財調査事業団発掘調査報告第382集
	106	今井見切塚遺跡第Ⅳ文化層1b地点	群馬県前橋市	39	38	30	1567	10	○	○				○		○	AⅡ	
86	107	天ヶ堤遺跡第3文化層Ⅱ・Ⅲ区	群馬県伊勢崎市	22	22	11	451	10	○	○	○						CⅣ	関根慎二・桜井美枝他2008『天ヶ堤遺跡(2)　北関東自動車道（伊勢崎～県境）地域並びに（一）香林羽黒線地方道路交付金事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書』群馬県埋蔵文化財調査事業団発掘調査報告書第430集
87	108	荒砥北三木堂Ⅱ遺跡第3文化層	群馬県前橋市	28	28	12	704	0			○					○	CⅢ	津島秀章他2008『上武道路・旧石器時代遺跡群（1）　今井道上Ⅱ遺跡・荒砥北三木堂Ⅱ遺跡・富田宮下遺跡・富田西原遺跡・富田高石遺跡・富田漆田遺跡・友田下大日遺跡・江木下大日遺跡　一般国道17号（上武道路）改築工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書』(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告第418集
88	109	大上遺跡第4文化層Ⅱ区	群馬県伊勢崎市	30	(30)	6	457	50	○	○	○	○		○		○	－	北側約1/2を検出。推定径約30m。 関口博幸他2008『大上遺跡Ⅰ－旧石器時代編一　北関東自動車道（伊勢崎～県境）地域並びに（一）香林羽黒線地方道路交付金事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書』群馬県埋蔵文化財調査事業団発掘調査報告書第434集
119	147	上泉唐ノ堀遺跡第3文化層拡張5区	群馬県前橋市	22	25	2	255	0		○	○			○		○	DⅣ	麻生敏隆他2012『上武道路・旧石器時代遺跡群（3）　上泉唐ノ堀遺跡・上泉新田塚遺跡群・上泉武田遺跡・五代砂留遺跡群・芳賀東部団地遺跡・胴城遺跡　一般国道17号（上武道路）改築工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書』(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告第535集
89	110	芳賀東部団地遺跡第2文化層B区	群馬県前橋市	29	29	6	213	20	○	○	○	○				○	DⅣ	
	111	芳賀東部団地遺跡第2文化層E区	群馬県前橋市	15	20	10	301	0									CⅣ	

表2　千葉県外　環状ブロック群集成

令和2年11月（No.トーンが追加遺跡）

遺跡No.	ブロック群No.	遺跡名・地点	所在地（市町村）	円環部推定径 東西（m）	円環部推定径 南北（m）	出土石器ブロック数	出土石器数	遺存率（%）	主要石器 台形様石器	主要石器 ナイフ形石器	主要石器 斧形石器・調整剥片	主要石器 彫刻刀形石器	主要石器 掻器	主要石器 削器	主要石器 石錐	主要石器 石刃	類型	備　考・文　献
120	148	内堀遺跡E区A地点	群馬県前橋市	29	25	8	319	0	○	○	○	○	○	○		○	CⅣ	前原　豊・宮内　毅1997『内堀遺跡群Ⅸ－大室公園整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書－』前橋市教育委員会 前原　豊1998「内堀遺跡群内堀遺跡」『第5回石器文化研究交流会－発表要旨－』石器文化研究会
131	161	富田高石遺跡北地点	群馬県前橋市	22	24	8	220	0								○	CⅣ	津島秀章他2008『上武道路・旧石器時代遺跡群（1）　今井道上Ⅱ遺跡・荒砥北三木堂Ⅱ遺跡・富田宮下遺跡・富田西原遺跡・富田高石遺跡・富田漆田遺跡・友田下大日遺跡・江木下大日遺跡　一般国道17号（上武道路）改築工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書』(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告第418集
90	112	折茂Ⅲ遺跡	群馬県高崎市	23	23	25	742	0	○	○	○		○	○	○	○	AⅢ	矢島　浩2005『長根遺跡群発掘調査報告書Ⅸ-県営畑地帯総合土地改良事業長根台地地区発掘調査』吉井町教育委員会
91	113	清河寺前原遺跡第2地点	埼玉県さいたま市	14	23	11	1476	0	○	○			○	○	○		CⅡ	西井幸雄他2009『清河寺前原遺跡　大宮西部特定土地区画整理事業地内埋蔵文化財発掘調査報告』埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第366集
125	154	藤久保東遺跡第Ⅸ層石器集中1～8	埼玉県入間郡三芳町	14	21	8	1250	0		○				○		○	CⅡ	大久保淳他2009『藤久保東遺跡Ⅱ-藤久保第一土地区画整理事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書-』三芳町埋蔵文化財報告書34　三芳町教育委員会
132	162	馬場遺跡	埼玉県春日部市	－	－	－	－	－									－	詳細不明。 倉澤麻由子2020「埼玉県」『日本考古学年報71（2018年度版）』日本考古学協会
92	114	野水遺跡第4文化層	東京都調布市	28	23	19	4481	0		○	○					○	BⅠ	川辺賢一他2006『都立武蔵野の森公園埋蔵文化財調査-野水遺跡第1地点-報告書』調布市遺跡調査会
93	115	田無南町遺跡旧石器時代1	東京都西東京市	55	44	12	1056	0	○	○	○	○	○	○	○		CⅡ	小田静夫他1992『田無南町　都立田無養護学校内埋蔵文化財発掘調査報告書』都立学校遺跡調査会
94	116	下里本邑遺跡A地点	東京都東久留米市	13	14	6	282	0	○		○	○		○			DⅣ	大竹憲明・須藤隆司・千葉　寛他1982『下里本邑遺跡』下里本邑遺跡調査会
95	117	多聞寺前遺跡第Ⅸ層	東京都東久留米市	23	24	18	589	0	○		○			○			BⅣ	戸沢充則・鶴丸俊明編1983『多聞寺前遺跡Ⅱ』多聞寺前遺跡調査会
96	118	鈴木遺跡都道南側・小学校D地点	東京都小平市	(45)	45	10	1088	30		○						○	CⅡ	東側約3/4を検出。東西推定径約45m。 総括報告書鈴木10文化層・南105～南114ブロック 小川　望・高田賢治他2020『鈴木遺跡　発掘調査総括報告書』小平市埋蔵文化財発掘調査報告書第58集　小平市教育委員会 舘野　孝・堀井晶子・砂田佳弘他1980『鈴木遺跡Ⅲ』鈴木遺跡刊行会 織笠　明・織笠明子・金山喜昭他1981『鈴木遺跡Ⅳ』鈴木遺跡刊行会
97	119	高井戸東遺跡（西台地）第Ⅸ中文化層	東京都杉並区	40	32	15	674	0	○	○	○					○	BⅢ	小田静夫他1977『高井戸東遺跡』高井戸東遺跡調査会
98	120	武蔵台遺跡Ｘb文化層	東京都府中市	18	17	10	不明	0	○		○	○					－	横山裕平・川口　潤他1984『武蔵台遺跡Ⅰ　武蔵国分寺跡西方地区の調査』都立府中病院内遺跡調査会
99	121	羽根沢台遺跡第Ⅶ文化層	東京都三鷹市	15	20	15	1430	30		○				○		○	BⅡ	下原裕司・斉藤圭子他1996『羽根沢台遺跡Ⅱ　東京都三鷹市大沢羽根沢台遺跡・羽根沢台遺跡横穴墓群発掘調査報告書』三鷹市埋蔵文化財調査報告書第18号　三鷹市教育委員会・三鷹市遺跡調査会
100	122	津久井城跡馬込地区第6文化層	神奈川県相模原市	29	27	7	1384	0	○	○	○	○	○	○			CⅡ	畠中俊明他2010『津久井城跡馬込地区　津久井広域道路建設事業に伴う発掘調査』かながわ考古学財団調査報告249
101	123	仲町遺跡JS地点a地区	長野県上水内群信濃町	28	24	10	1686	20	○	○	○						CⅡ	鶴田典昭他2004『仲町遺跡　一般国道18号（野尻バイパス）埋蔵文化財発掘調査報告書3－信濃町内その3－』長野県埋蔵文化財センター発掘調査報告書63
	124	仲町遺跡JS地点b地区	長野県上水内群信濃町	32	28	20	3629	20	○	○	○						AⅠ	
	125	仲町遺跡BP3地点Ⅴ層	長野県上水内群信濃町	18	16	18	4513	10	○	○	○		○	○			BⅠ	

表2　千葉県外　環状ブロック群集成

令和2年11月（№.トーンが追加遺跡）

遺跡№.	ブロック群№.	遺跡名・地点	所在地（市町村）	円環部推定径 東西（m）	円環部推定径 南北（m）	出土石器ブロック数	出土石器数	遺存率（%）	主要石器 台形様石器	主要石器 ナイフ形石器	主要石器 斧形石器・調整剥片	主要石器 彫刻刀形石器	主要石器 掻器	主要石器 削器	主要石器 石錐	主要石器 石刃	類型	備　考・文　献
102	126	日向林B遺跡Ⅰ石器文化	長野県上水内群信濃町	25	30	30	9001	0	○	○	○	○	○	○	○		AⅠ	谷　和隆2000『上信越自動車道埋蔵文化財発掘調査報告書-信濃町内その1-日向林B遺跡・日向林A遺跡・七ツ栗遺跡・大平B遺跡　旧石器時代』長野県埋蔵文化財センター発掘調査報告書48
103	127	上ノ原遺跡上ノ原Ⅰa石器文化	長野県上水内群信濃町	30	25	9	779	0	○	○		○	○	○		○	CⅢ	谷　和隆2000『上信越自動車道埋蔵文化財発掘調査報告書-信濃町内その1-裏ノ山遺跡・東裏遺跡・大久保南遺跡・上ノ原遺跡　旧石器時代』長野県埋蔵文化財センター発掘調査報告書48
	128	上ノ原遺跡上ノ原Ⅰb石器文化	長野県上水内群信濃町	20	38	10	846	0	○	○	○		○	○		○	CⅢ	
104	129	大久保南遺跡大久保南Ⅰa石器文化	長野県上水内群信濃町	24	22	6	298	0	○	○	○			○		○	DⅣ	
	130	大久保南遺跡大久保南Ⅰb石器文化	長野県上水内群信濃町	(28)	28	9	657	40		○	○					○	-	西側約1/2を検出。東西推定径約28m。参考文献同上。
105	131	貫ノ木遺跡第3地点	長野県上水内群信濃町	40	68	33	7102	0	○	○	○	○	○	○	○	○	AⅠ	大竹憲明2000『上信越自動車道埋蔵文化財発掘調査報告書-信濃町内その1-貫ノ木遺跡・西岡A遺跡　旧石器時代』長野県埋蔵文化財センター発掘調査報告書48
106	132	弓振日向遺跡	長野県諏訪郡原村	25	30	9	99	0	○	○	○						CⅣ	大竹憲明他1988『弓振日向遺跡（第2次発掘調査）　昭和61年度県営ほ場整備事業弓振地区に伴う緊急発掘調査報告書』原村教育委員会
107	133	針ヶ平第1遺跡	長野県上伊那郡飯島町	10	12	9	713	5		○	○			○			CⅢ	大竹憲明他1987『針ヶ平第1遺跡』飯島町教育委員会
108	134	立科F遺跡	長野県佐久市	20	21	9	211	0	○		○		○	○		○	CⅣ	須藤隆司1991『立科F遺跡　ナイフ形石器文化成立期の集落研究　長野県佐久市前山立科F遺跡発掘調査報告書』佐久市埋蔵文化財調査報告書第5集　佐久市教育委員会・佐久市埋蔵文化財調査センター
109	135	中見代第Ⅰ遺跡第Ⅴ文化層A地区	静岡県沼津市	9	11	8	1791	0	○	○	○		○	○		○	CⅡ	高尾好之1989『中見代第Ⅰ遺跡調査報告書（足高尾上№.5遺跡）』沼津市文化財調査報告書第45集　沼津市教育委員会
110	136	土手上遺跡d・e区-1（BBⅤ）	静岡県沼津市	28	30	30	2203	0	○		○		○	○	○		AⅠ	沼津市教育委員会1997『土手上遺跡（d・e区-1）発掘調査報告書』沼津市文化財調査報告書第63集　沼津市教育委員会
111	137	西洞遺跡b区-1(BBⅥO)	静岡県沼津市	10	10	14	339	0	○	○	○			○			BⅣ	笹原芳郎他1999『西洞遺跡（b区-1）発掘調査報告書』沼津市文化財調査報告書第69集　沼津市教育委員会
121	149	西洞遺跡第二東名№.8地点第Ⅰ文化層	静岡県沼津市	12	9	13	1844	0	○	○	○			○		○	BⅡ	三好元樹2012『西洞遺跡Ⅱ　第二東名№.8地点　旧石器時代・縄文時代編　第二東名建設事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書　沼津市－8』静岡県埋蔵文化財センター調査報告第2集
112	138	梅ノ木沢遺跡エリアA	静岡県駿東郡長泉町	25	19	4	218	0	○		○		○	○			DⅣ	笹原千賀子2009『梅ノ木沢遺跡Ⅱ（旧石器時代編）　第二東名№.143-2地点、CR35地点　第二東名建設事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書長泉町－4』静岡県埋蔵文化財調査研究所調査報告第206集
	139	梅ノ木沢遺跡エリアB	静岡県駿東郡長泉町	26	(26)	6	196	0	○		○			○			-	南側約1/2を削平により消失。南北推定径約26m。参考文献同上。
113	140	峯ノ阪遺跡	奈良県生駒郡三郷町	15	13	18	794	0					○	○			BⅢ	西藤清秀・宮原晋一1996「峯ノ阪遺跡『奈良県遺跡調査概報1995年度（第一分冊）』奈良県立橿原考古学研究所
114	141	七日市遺跡（G・H区）	兵庫県氷上郡春日町	15	26	11	759	20	○	○	○			○			CⅢ	久保弘幸・藤田　淳編1990『七日市遺跡（Ⅰ）（旧石器時代遺跡の調査）－近畿自動車道舞鶴線関係埋蔵文化財調査報告書（Ⅻ-1）－』兵庫県文化財調査報告書第72-1冊
	142	七日市遺跡（第Ⅱ文化層3ACブロック）	兵庫県氷上郡春日町	30	15	9	1659	0	○	○	○						CⅡ	兵庫県教育委員会埋蔵文化財調査事務所2004『七日市遺跡（Ⅲ）旧石器時代の調査-近畿自動車道敦賀線（吉川～福知山）建設事業（春日JCT）に伴う発掘調査報告書-』兵庫県文化財調査報告書第272冊　兵庫県立博物館
115	143	中山西遺跡	岡山県真庭市	11	12	6	1158	0	○							○	DⅡ	下澤公明・山磨康平他1995『中国横断自動車道建設に伴う発掘調査2中山西遺跡・城山東遺跡・下郷原和田遺跡・下郷原田代遺跡・木谷古墳群・中原古墳群』岡山県埋蔵文化財発掘調査報告93

表2　千葉県外　環状ブロック群集成

令和2年11月（№トーンが追加遺跡）

遺跡№	ブロック群№	遺跡名・地点	所在地（市町村）	円環部推定径 東西（m）	円環部推定径 南北（m）	出土石器ブロック数	出土石器数	遺存率（%）	主要石器 台形様石器	主要石器 ナイフ形石器	主要石器 斧形石器・調整剥片	主要石器 彫刻刀形石器	主要石器 掻器	主要石器 削器	主要石器 石錐	主要石器 石刃	類型	備　考・文　献
116	144	原田遺跡7層	島根県仁多郡奥出雲町	15	16	9	279	0	○		○						CIV	伊藤徳広・石橋裕子他2008『原田遺跡(4)- 旧石器時代の調査-尾原ダム建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書12』島根県教育委員会
117	145	石の本遺跡群8区	熊本県熊本市	31	28	15	3320	0	○		○		○	○	○		BⅠ	池田朋生他1999『石の本遺跡群Ⅱ　第54回国民体育大会秋季主会場整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査』熊本県文化財調査報告書第178集
118	146	曲野遺跡第Ⅲ調査区	熊本県宇城市	(53)	(31)	15	476	10	○	○							BIV	中心部の約9割を調査。規模は推定。 江本　直他1984『曲野遺跡Ⅱ－一般国道3号松橋バイパスに伴う埋蔵文化財発掘調査報告（第Ⅲ自調査報告）熊本県文化財調査報告第65集
133	163	クノ原遺跡	熊本県球磨郡湯前町	(19)	(19)	9	682	60		○			○	○		○	－	道路の調査で環状部の北東側と南西側の一部を検出。推定径約19m。 古森政次他1999『潮山・クノ原遺跡　熊本県農政部ふるさと農道建設に伴う埋蔵文化財調査』熊本県文化財調査報告書第179集
123	152	東畦原第3遺跡第Ⅱ文化層ブロック5～8	宮崎県宮崎郡佐土原町	16	17	4	78	0		○			○	○		○	DIV	福松東一他2004『東畦原第3遺跡　東九州自動車道（都農～西都間）建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書4』宮崎県埋蔵文化財センター発掘調査報告書第87集
124	153	立野第5遺跡Ⅷ層	宮崎県児湯郡都農町	20	17	10	850	0		○			○	○		○	CⅢ	日高優子2007『立野第5遺跡・立野第2遺跡　東九州自動車道（都農～西都間）建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書49』宮崎県埋蔵文化財センター発掘調査報告書第156集

77　89
遺跡　基（千葉県外）

全国	
133	163
遺跡	基

表3　環状ブロック群類型別集計表

類型	県内	県外	合計
AⅠ	2	6	8
AⅡ	1	3	4
AⅢ	2	1	3
AⅣ	0	0	0
BⅠ	0	6	6
BⅡ	5	2	7
BⅢ	1	4	5
BⅣ	2	7	9
CⅠ	0	1	1
CⅡ	2	9	11
CⅢ	7	7	14
CⅣ	22	15	37
DⅠ	0	0	0
DⅡ	0	2	2
DⅢ	2	0	2
DⅣ	15	16	31
不明	13	10	23
合計	74	89	163

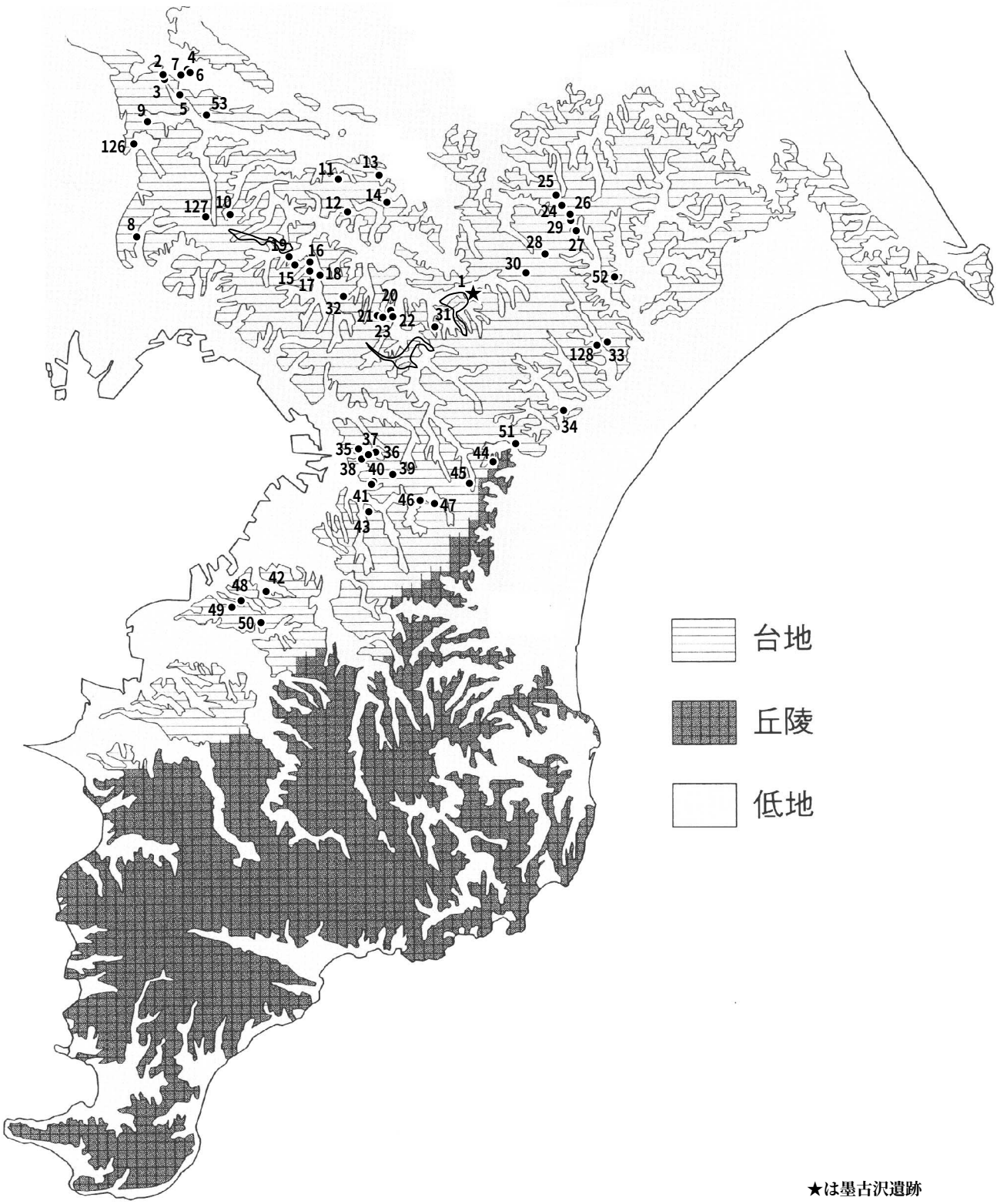


図１　千葉県環状ブロック群分布図

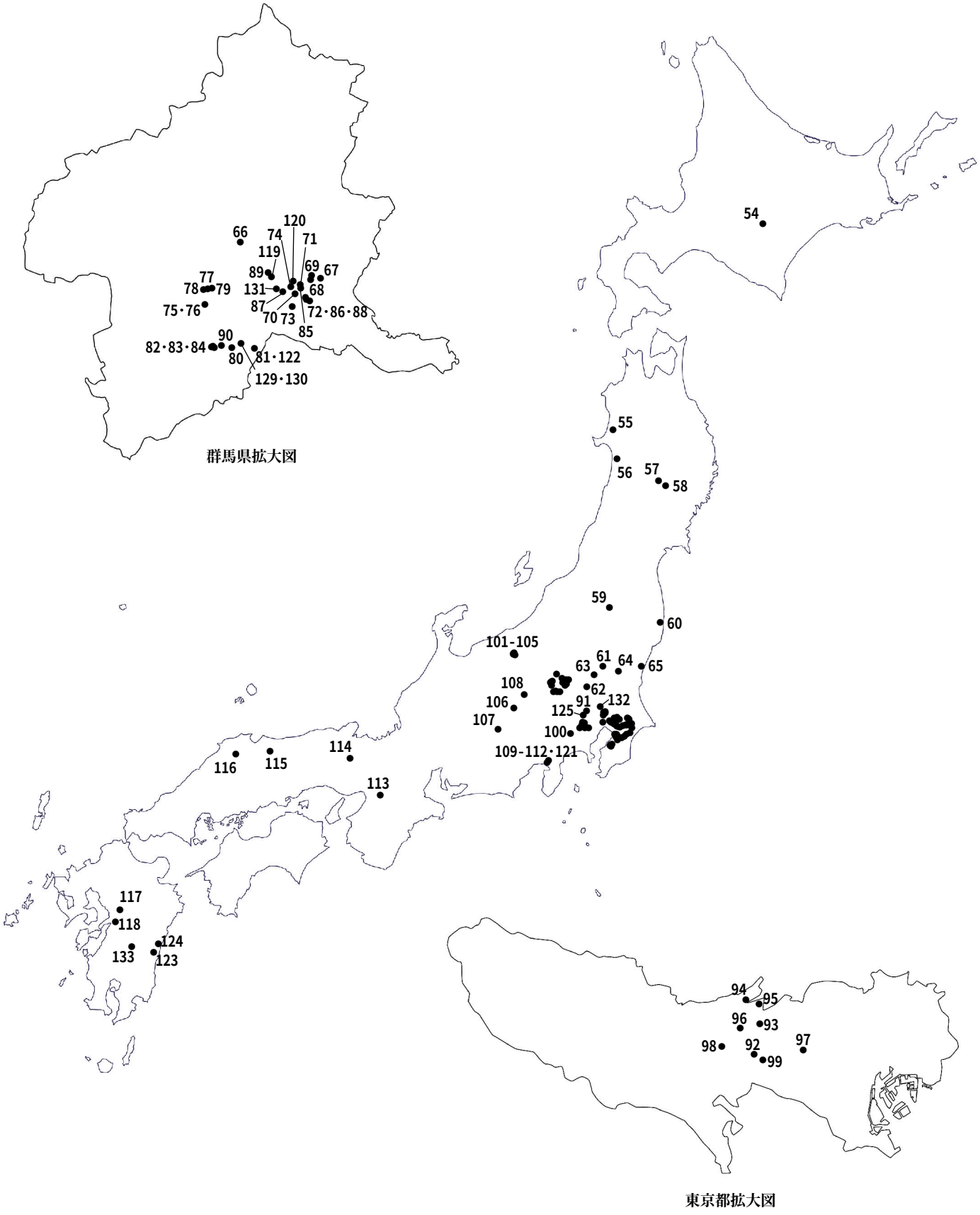


図２　全国環状ブロック群分布図

墨古沢遺跡国史跡指定1周年記念シンポジウム

「34,000 年前、墨古沢は日本の中心であった」

予　稿　集

発行　令和２年１２月５日

編集　酒々井町教育委員会

〒285-0922
千葉県印旛郡酒々井町中央台 4-10-1
TEL　043-496-5334　　FAX　043-496-5323
E-mail：syougaku@town.shisui.chiba.jp